

ARCHICAD 計算ガイド

GRAPHISOFT®

特約店および製品情報に関しては、グラフィソフト社ウェブサイト (<http://www.graphisoft.co.jp>) をご覧ください。

ARCHICAD 計算ガイド

Copyright (C) 2020 by GRAPHISOFT, all rights reserved. 事前に書面で明示された許可のない限り、転載、
現の書き換え、~~翻訳~~禁止されています。

商標

ARCHICAD® は、GRAPHISOFT の登録商標です。
記載されている会社名および商品名は、各社の商標及び登録商標です。

目次

はじめに	5
計算コマンド	6
リストタイプ	9
計算データベースの構成	12
計算データベースの編集	17
キーの編集	19
単位の編集	20
構成要素の編集	22
記述項目の編集	24
特性オブジェクト	25
特性オブジェクトの作成および編集	26
構成要素および記述項目の定義	28
構成要素および記述項目のデータベースへのリンク	31
特性オブジェクトの要素条件へのリンク	32
特性の割り当てのための条件の作成	36
要素への特性の割り当て	37
最後に選択した特性	38
特性オブジェクトの検索	39
リスト設定とテンプレート	41
[リストを設定] ダイアログボックス	43
リスト設定の管理	45
リスト設定の編集	46
[要素] タブページ	47
[特性とパラメータ] タブページ	51
[リスト形式] タブページ	54
グラフィックテンプレート	57
構成要素リスト	59
[構成要素] タブページ	60
[特性とパラメータ] タブページ	61
ゾーンリスト	62
[ゾーン] タブページ	63
[特性とパラメータ] タブページ	64
[関連要素] タブページ	65
[フォーマットウィザード]/[フォーマットアシスタント]の使い方	66
フォーマットウィザード:[レイアウト] タブページ	67
ページ項目の編集	69
フォーマットウィザード:[内容] タブページ	72

フォーマットウィザード：[フィールド] タブページ	74
例一覧	75
A：計算例	75
B：グラフィックテンプレートの設定例	81
索引	90

はじめに

ARCHICAD の計算メニューの様々な機能は、プロジェクトデータを解析してプロジェクト中の要素の数、空間配置、構成要素の量などを計算します。特殊なメニューコマンドで、数量拾い、在庫管理、価格、一覧など、様々な計算を行います。抽出された情報は検索、カスタマイズされたレイアウトでの表示、他のアプリケーションに容易にエクスポートすることができます。

「ARCHICAD 計算ガイド」は、上級ユーザー向けに書かれたマニュアルで、プロジェクトのレポートを作成するための機能について説明されています。「計算ガイド付録」には、ステップごとに説明された2つの計算例が載せられています。(初めて計算機能を使用する場合は、計算機能についての概要が記載された、ARCHICAD リファレンスガイドの「ドキュメント」の章にある「計算」をお読みください)。

注記: 計算機能は従来(レガシー)のものと同様に、ARCHICAD で修正、開発される予定はございません。

- 階段と手摺りツール(バージョン21)はサポートされていません。
- セグメント化およびテーパ付きの梁と柱(バージョン23以降で使用可能)はサポートされていません。単一セグメントの梁と柱は、以前のバージョンと同様にサポートされています。

新しい要素タイプを一覧表示するには、一覧表を使用します。

計算コマンド

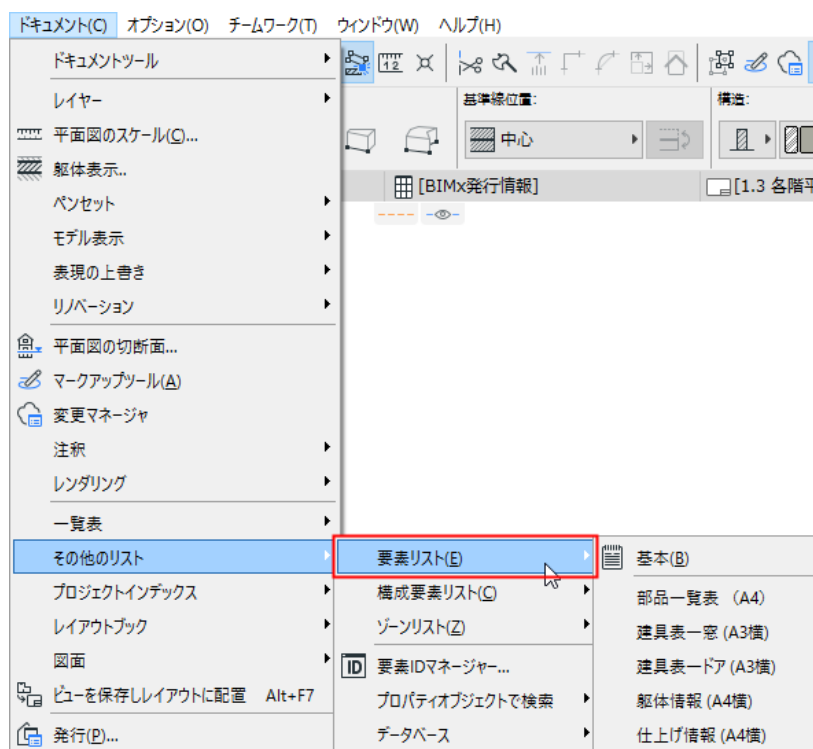
計算機能は、上級ユーザー向けのツールです。このセクションで参照されるコマンドには、ARCHICAD のデフォルトの作業環境プロファイルでは表示されないコマンドがあります。これらのコマンドを作業環境に追加するには、[オプション]→[作業環境]→[メニュー]を使用して既存のメニュー（[ドキュメント]→[一覧表とリスト]など）に追加します。

- 一覧表の設定
- データベースの編集
- 特性を新規作成
- 特性を編集
- 最後に選択した特性
- 特性を条件にリンク

リストコマンド

[要素リスト]、[構成要素リスト]、[ゾーンリスト]のコマンドは、[リスト設定]ダイアログボックスで定義されている設定に基づいて、プロジェクト全体または選択した特定の要素に関する、さまざまな形式と内容のリストを生成します。

希望のリストを作成するには、サブメニューの定義済みリストの設定のいずれかを選択します。

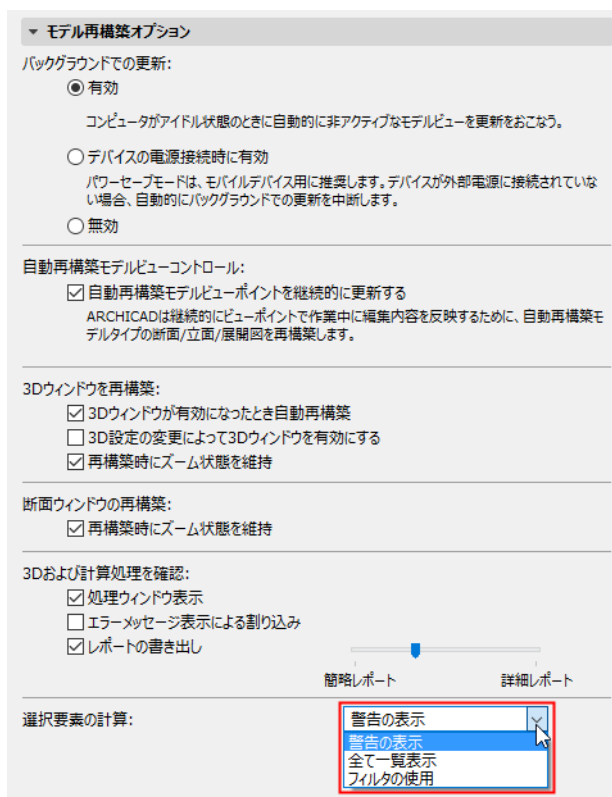


リストタイプの詳細については、[? リストタイプ ?](#)を参照してください。

選択とリストコマンド

プロジェクトにおいて要素が選択されているときにリストコマンドを選択すると、リストコマンドの条件と選択内容との間に競合が発生する場合があります（例えば、現在の選択内容にも窓とドアが含まれているときに窓の建具表を選択した場合）。

[オプション] → [作業環境] → [モデル再構築オプション] をクリックすると表示される [選択要素の計算] ポップアップメニューに、この状況を管理するための3つのオプションが表示されます。



- [全て一覧表示] オプションを選択すると、選択された要素の全てがリストで計算されます。フィルタ条件に合致していない要素も計算に含まれます。
- [フィルタの使用] オプションを選択すると、リストテンプレートに対して定義されているフィルタが選択された要素に適用されます。これらの条件に合致していない要素は無視されます。
- [警告の表示] オプションを選択すると、競合した場合に警告が表示されます。上記の2つのオプションのいずれかを選択できます。

リスト設定とレポートの出力

データのソートと分析、必要な結果の計算、およびレポートの形式設定は、全て選択したリスト設定の構成に従って行われます。リスト設定は、ARCHICAD で必要な結果を表示する方法についての定義済みの命令セットです。リスト設定の形式は、次の2つのタイプにすることができます。

- 標準テキストレポートは、計算結果を編集可能なタブ区切りテキスト形式で表示します。レポートはテキストウィンドウに表示され、スプレッドシート、テキストファイル、HTML ファイルのいずれかとして保存できます。
- グラフィック出力では、英数字情報と要素シンボルの図面、ロゴ、およびその他のビットマップを含む画像情報の両方が可能です。グラフィック出力レポートは、RTF リストファイルまたは ARCHICAD プロジェクトファイルとして保存することができます。これらのリストの全体または一部を任意の図面にコピーすることもできます。

言語バージョンごとに内容は違いますが、いくつかの出荷時デフォルトリスト設定は、ARCHICAD が現在のライブラリなしで実行しているときでも利用することができます。

定義済みのテンプレートに基づいたグラフィック設定は、[フォーマットアシスタント]または[フォーマットウィザード]を使用して設定できます。

[「\[リストを設定\]ダイアログボックス」](#)および[「\[フォーマットウィザード\]/\[フォーマットアシスタント\]の使い方」](#)を参照してください。

リストタイプ

ARCHICAD では、要素リスト、構成要素リスト、ゾーンリストという 3 つのタイプの計算レポートを生成できます。

注記：アドオンのコマンドでは、ほかのリストタイプも生成できます。

要素リスト

要素リストは、建具表と在庫を作成し、プロジェクトの組み立て要素のパラメータを表示するのに最適です。

躯体情報								2017/01/30
要素	フロア	レイヤー名	要素 ID	材料	幅 / 厚さ	高さ	表面積	体積
壁								
	1FL	壁-躯体	W0	壁板 - ダーク	0.16 m	3.00 m	13.28 m ²	2.06 m ³
	1FL	壁-躯体	W1	壁板 - ダーク	0.16 m	3.00 m	16.15 m ²	2.54 m ³
	1FL	壁-躯体	W1	壁板 - 中	0.17 m	3.00 m	13.50 m ²	2.29 m ³
	1FL	壁-躯体	W2	壁板 - ダーク	0.16 m	3.00 m	16.24 m ²	2.51 m ³
	1FL	壁-躯体	W2	壁板 - 中	0.17 m	3.00 m	17.16 m ²	2.91 m ³
	1FL	壁-躯体	W3	コンクリート - 04	0.16 m	3.00 m	18.77 m ²	3.01 m ³
	1FL	壁-躯体	W3	壁板 - 中	0.17 m	3.00 m	15.55 m ²	2.63 m ³
	1FL	壁-躯体	W4	コンクリート - 04	0.16 m	3.00 m	7.53 m ²	1.21 m ³
	1FL	壁-躯体	W4	壁板 - 中	0.17 m	3.00 m	18.19 m ²	3.07 m ³
	1FL	壁-躯体	W5	コンクリート - 04	0.16 m	3.00 m	16.33 m ²	2.62 m ³
	1FL	壁-躯体	W5	漆喰 - 白 ファイン	0.11 m	3.00 m	7.53 m ²	0.80 m ³
	1FL	壁-躯体	W6	漆喰 - 白 ファイン	0.11 m	3.00 m	31.34 m ²	3.38 m ³
	1FL	壁-躯体	W7	漆喰 - 白 ファイン	0.11 m	3.00 m	7.50 m ²	0.79 m ³
	1FL	壁-躯体	W8	漆喰 - 白 ファイン	0.11 m	3.00 m	29.89 m ²	3.21 m ³
1FL	壁-躯体	W9	壁板 - ダーク	0.16 m	3.00 m	16.41 m ²	2.59 m ³	
壁	1FL 合計						245.38 m ²	35.64 m ³
壁	全フロア合計						245.38 m ²	35.64 m ³
スラブ								
	1FL	スラブ	S1	コンクリート - 04	0.20 m	0.00 m	39.14 m ²	7.83 m ³

建具表 (窓)

符号	窓図	場所階		個数		寸法		枠、水切り、縁部隠蔽材仕上げ・ガラス	
		階名	形式	W	H	FD	FW		
AW 1		1FL	2	W	0.90	枠/隠蔽材仕上げ: 水切り材仕上げ: 縁部隠蔽材仕上げ: ガラス種類、厚さ:	H	1.50	
				FD	0.05				
				FW	0.05				
				H	1.50				
AW 1		1FL	2	W	1.50	枠/隠蔽材仕上げ: 水切り材仕上げ: 縁部隠蔽材仕上げ: ガラス種類、厚さ:	H	1.50	
				FD	0.05				
				FW	0.05				
				H	1.50				
AW 1		1FL	3	W	2.15	枠/隠蔽材仕上げ: 水切り材仕上げ: 縁部隠蔽材仕上げ: ガラス種類、厚さ:	H	1.50	
				FD	0.10				
				FW	0.05				
				H	1.50				
AW 5		1FL	1	引違い	W	1.60	枠/隠蔽材仕上げ: 未定 水切り材仕上げ: 未定 縁部隠蔽材仕上げ: 未定 ガラス種類、厚さ: 未定	H	1.20
					FD	0.05			未定 未定 未定 0.02
					FW	0.07			
					H	1.20			
AW 6		1FL	2	引込み	W	0.80	枠/隠蔽材仕上げ: 未定 水切り材仕上げ: 未定 縁部隠蔽材仕上げ: 未定 ガラス種類、厚さ: 未定	H	
					FD	0.05			未定 未定 未定 0.02
					FW	0.07			
					H	1.20			

要素リストを生成するために、ARCHICAD は選択されたリスト設定の構成に従って、プロジェクトまたは組み立て要素の選択セットをフィルタします。フィルタの設定に一致する要素がリストされ、リスト設定の定義によっては要素のパラメータ、構成要素、および記述項目も一緒に表示されます。

次の表は、さまざまな要素タイプ、その表面、および要素タイプごとの体積列の意味を示しています。

要素	表面	表面	表面	表面	表面	体積
壁	基準 ¹	その他 ¹	辺 ²			合計体積
柱	躯体					躯体
梁	上面	下面	左側面 ³	右側面 ³	終端	合計体積
スラブ	上面	下面	辺			合計体積
屋根	上面	下面	辺			合計体積
メッシュ	上面	下面	辺			合計体積
ゾーン	面積					合計体積
オブジェクト	合計					合計体積
ドア/窓	ライブラリ部品要素の表面					ライブラリ部品要素の合計体積

注記:

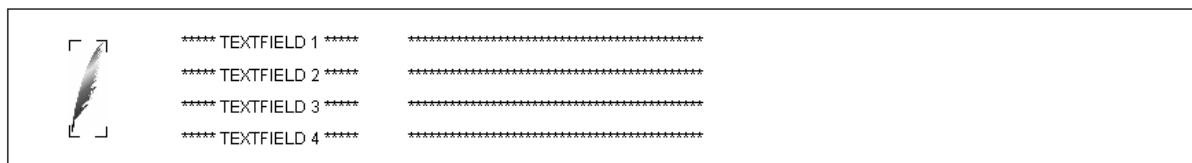
¹ 外壁側抱きのある開口部周りの表面と外壁側抱きの奥行きに沿った表面を含む。「基準」とは壁の基準線側、「反対」は壁の基準線側と逆の側面を意味しています。

² 全ての辺 (上下左右)。開口部の辺は含みますが、外壁側抱きのある開口部のいくつかの特殊な辺は除きます。

³ 梁の向きによって定義される左側面と右側面。梁が垂直以外の角度で壁に接続されている場合には、左右が違う場合があります。

構成要素リスト

構成要素リストは、材質一覧、数量拾い、または価格表が要求されたときに生成されます。これらのレポートは、通常は構成要素タイプの特徴を合計して表示しますが、特定の要素パラメータもリストさせることができます。



Component List by keys							2/7/01
Key Code/Name	Code	Name	Database Qty.	Unit	Ref. Qty.	Ref. Unit	Quantity
004 Masonry							
	100	common brick 24*11.5*7.1 cm	383.200	pieces	3.386	m²	1,297.510
	100	common brick 24*11.5*7.1 cm	383.200	pieces	5.045	m²	1,933.271
	100	common brick 24*11.5*7.1 cm	383.200	pieces	1.992	m²	763.507
	100	common brick 24*11.5*7.1 cm	383.200	pieces	3.732	m²	1,430.132
Total	common brick 24*11.5*7.1 cm						5,425.00 pieces
	101	mortar	0.169	m3	1.992	m²	0.337
	101	mortar	0.169	m3	3.386	m²	0.572
	101	mortar	0.169	m3	5.045	m²	0.853
	101	mortar	0.169	m3	3.732	m²	0.631
Total	mortar						3.00 m3
	102	plaster	0.030	m3	19.611	m²	0.588
	102	plaster	0.030	m3	33.327	m²	1.000
	102	plaster	0.030	m3	36.733	m²	1.102
	102	plaster	0.030	m3	49.656	m²	1.490

Page 1

構成要素キー名	構成要素コード	構成要素名	構成要素量	構成要素単位名	構成要素基準単位
1 Concrete	084	structural concrete	45.818	m3	m2
1 Concrete	085	lightweight concrete	4.582	m3	m2
1 Finishes	2969	10x10 tile	2,863.605	pieces	m2

ゾーンリスト

ゾーンリストは、通常は部屋の建具表の作成および建具票の完成に使用します。ゾーンリストには、ゾーンのパラメータと関連する組み立て要素を含めることができます。関連する組み立て要素がリストされたレポートは、実際には、要素の属しているゾーンによって計算範囲が限定された要素リストになります。

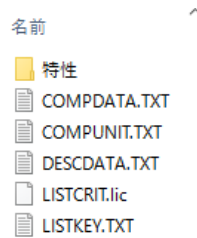
構成要素キー名	構成要素コード	構成要素名	構成要素量	構成要素単位名	構成要素基準単位
1 Concrete	084	structural concrete	45.818	m3	m2
1 Concrete	085	lightweight concrete	4.582	m3	m2
1 Finishes	2969	10x10 tile	2,863.605	pieces	m2

計算データベースの構成

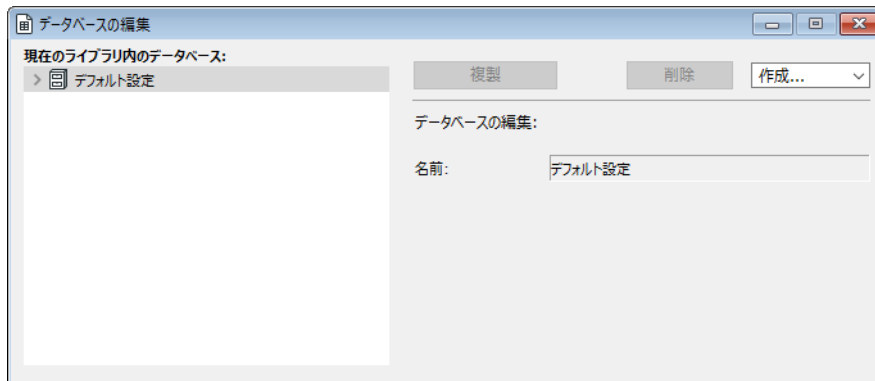
複雑なレポートの作成時に ARCHICAD が必要とする情報のほとんどは、現在のライブラリ内の特性データベースから得られます。ARCHICAD に含まれている出荷時のデフォルトデータベースは、使用、拡張、修正、および更新することができます。また、各自の必要に合わせて複数のデータベースを設定することもできます。データベースには、キーと呼ばれる論理グループに編成された構成要素、記述項目、単位を含めることができます。データベースは、[計算]メニューから編集することができます。これには、新しいデータベース、キー、構成要素、および記述項目の作成も含まれます。

[「計算コマンド」も参照してください。](#)

データベースは、ARCHICAD ライブラリの [リストテンプレート]/[特性データ] フォルダ内に配置されたファイルのセットです。



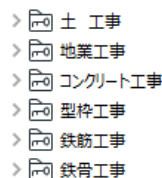
内蔵計算データベースには、[データベースを編集] コマンドからアクセスできます。



注記：データベースには、要素が参照する単位も含まれています（[下記を参照](#)）。

[「計算データベースの編集」も参照してください。](#)

キー

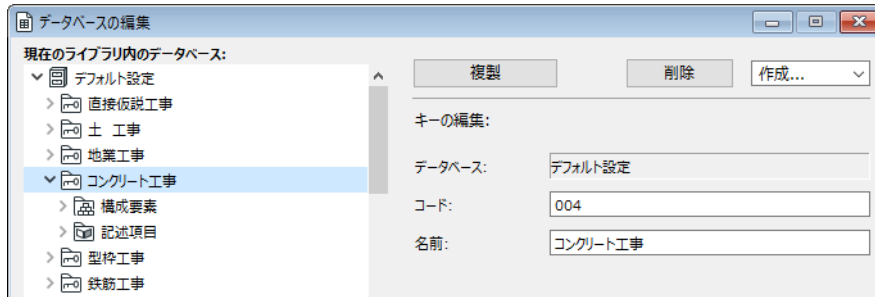


データベースのデータ項目は、キー別に分類された階層システムに配列されています。キーには、1 グループの構成要素と記述項目が含まれています。構成要素と記述項目は、通常は、各国の数量拾い規格に従って論理的にグループ分けされています。特性は、構造の種類別（壁、柱、屋根など）、材質別（コンクリート、木材、鋼など）、または作業のタイプ別（基礎、電気、家具など）にグループ分けすることができます。相

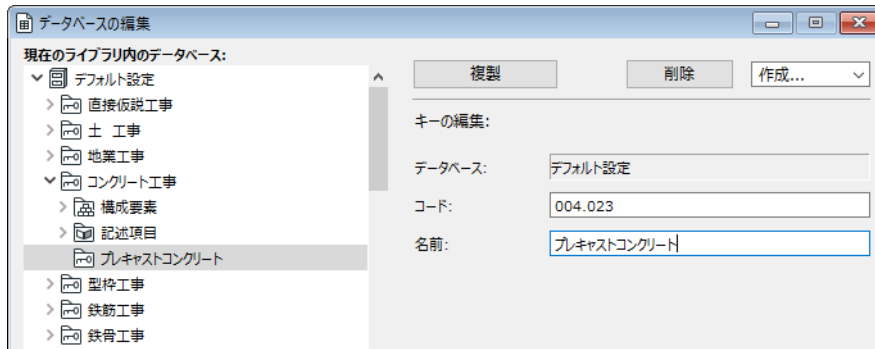
互参照はできませんので、各キー用に複製しない限り、同じ特性項目を複数のキーに渡ってグループ分けすることはできません。

全てのキーには名前とコードがあります。これらは、両方とも英数字の定義です。データベースのキーは、コード別、さらにアルファベット順に配列されています。キーの中にも階層を作ることができます。この階層もコードで制御されます。コードとは、説明的な名前にするこことのできる識別子です。

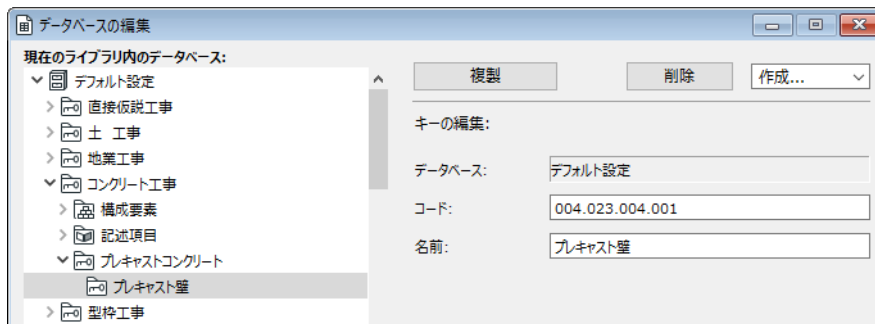
例：



[コンクリート] という名前のキーを作成し、そのコードが [003] であるとします。

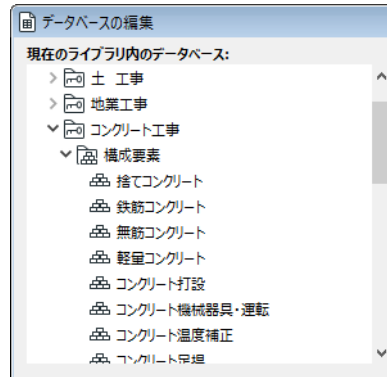


[プレキャストコンクリート] という名前の別のキーを作成し、こちらのコードは [003.001] になるとします。この形式により、[プレキャストコンクリート] は [コンクリート] キーのサブキーになります。



さらに [プレキャスト壁] という名前の追加キーを作成し、コードが [003.001.001] であるとします。この形式により、[プレキャスト壁] は [プレキャストコンクリート] サブキーのサブキーになります。このようにして、最高 4 つまでのレベルの階層キーおよびサブキーを作成することができます。

構成要素



構成要素は、構造の原料（鋼、コンクリートなど）と、構造タイプの要素に準じて測定できる項目（価格、工数など）のどちらかとすることができます。各構成要素には、名前、コード、数量定義、単位、および関連構造要素を基準とした比率への参照があります。

- コード：任意の英数字文字列（'1143'、'Wall-012'、'JKG-ft'、'345fdsr' など）
- 名前：構成要素を識別するためのテキスト文字列（'gravel' など）
- 数量：数値（'412.5' など）
- 単位：同一データベース内の [単位] で定義されている単位（'kg'、'm2'、'Euro'、'\$' など） - ポップアップメニューから選択できます。
- 基準数量：定義済みの値のセット。構成要素は、選択した基準数量に比例して計算されます。
 - 項目：構成要素は、組み立て要素の部分ごとに計算されます。
 - その他の基準単位については、次の表と説明を参照してください。

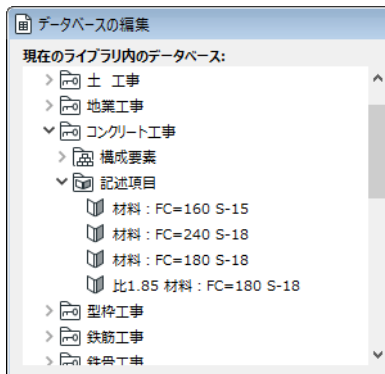
参照要素	長さ	面積 A	面積 B	面積 C	体積
壁	(基準 + 反対) / 2	基準	その他	基準 + 反対	合計体積
柱	最大高さ	仕上げ	仕上げ	仕上げ	躯体 + 仕上げ
梁	(左 + 右) / 2	左 (L)	右	合計	合計体積
スラブ	外周	上面	下面	上面 + 下面	合計体積
屋根	外周	上面	下面	上面 + 下面	合計体積
メッシュ	外周	上面	下面	合計	合計体積
ゾーン	外周	面積	面積	面積	合計体積
オブジェクト	x 軸方向長さ (=A)	0	0	合計	合計体積
開口	開口幅	幅 * 高さ	幅 * 高さ	ライブラリ部品の要素の表面積	ライブラリ部品要素の合計体積

- 略字：基準：壁の基準線側。反対：壁の基準側と逆の側面。左：梁の向きによって定義される梁の左側面。右：梁の向きによって定義される梁の右側面。
- 意味：
 - 柱の長さに比例する構成要素：0 に代わって柱の高さが取得される
 - 梁の長さに比例する構成要素：0 に代わって (左 + 右) / 2 が取得される
 - オブジェクトの長さと比例する構成要素：0 に代わってパラメータ A が取得される
 - 柱の表面積に比例する構成要素：躯体の周りの表面積は省略され、仕上げの周りの表面積だけが取得される。仕上げがない場合、躯体面積が取得される。

注記：

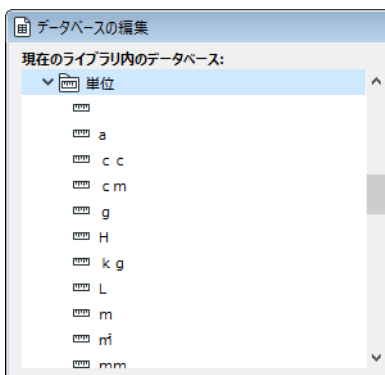
- 梁が垂直以外の角度で壁に接続されている場合には、左右は違う場合があります。
- いくつかの値は、意図的に該当する要素リストの値とは異なっています。これは、対応付けられた構成要素は通常別の表面積を基に計算されるからです。例えば、壁の塗装面積を計算したいとします。この場合、必要なのは壁のエッジ表面ではなく、基準面および反対側の合計面積になります。
- 構成要素は、データベース内（グローバル）または特性オブジェクト内（ローカル）に存在させることができます。ライブラリ部品タイプの組み立て要素（オブジェクト、ランプ、窓、ドア）は、ローカルで定義したオブジェクト固有の特性も持つこともできます。ただし、このような特性は定義されたライブラリ部品でのみ使用でき、ほかの要素に対応付けることはできません。特性オブジェクトは、[ファイル]→[ライブラリとオブジェクト]→[オブジェクトを開く]を使用して特性スクリプトウィンドウで編集するか、または[特性を新規作成]および[特性を編集]などの適切な計算コマンドを使用して作成および編集できます。

詳細は、「特性オブジェクト」を参照してください。

記述項目

記述項目は、構造のタイプ（例えば、仕上げ、セキュリティ、出荷、組み立て情報、または取り扱い情報）に関連するテキスト要素です。記述項目はレポートに表示されるだけです。計算では使用されず、構成要素や要素のパラメータにはリンクされません。各記述項目には、名前（ショートテキスト）、コード、および詳しい説明（詳細テキスト）が設定されています。

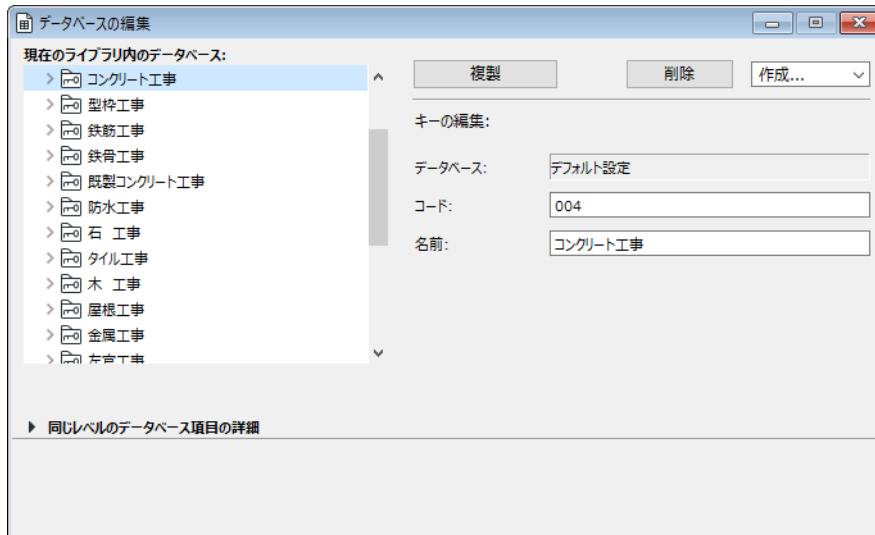
構成要素と同じように、記述項目はデータベース内（グローバル）または特性オブジェクト内（ローカル）に存在させることができます。

単位

全てのデータベースには、計算に使用される単位に関する特別な項目グループがあります。単位セットは、データベースの基本キーと同じ階層レベルにあります。データベースごとにいくつでも単位のタイプを定義することができます。

計算データベースの編集

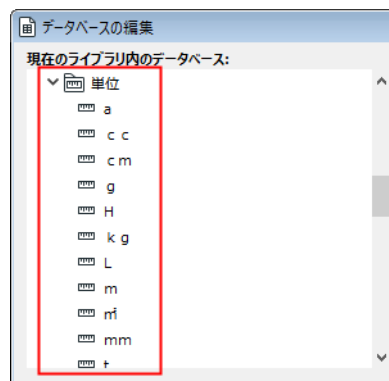
[編集] → [データベースを編集] を選択します。表示されるダイアログボックスには、レポート生成のためにプロジェクト情報を処理するときに ARCHICAD によって使われるデータベースの要素を作成、カスタマイズ、修正、削除するためのコントロールが含まれています。



情報要素は、階層順に並べられています。データベースの内容は、このダイアログボックスの左側に表示されます。

ダイアログボックスの右側は、左側で選択した項目によって変わります（[詳細については個々の節を参照](#)）。ダイアログボックス下部の [同じレベルのデータベース項目の詳細] セクションを使用すると、最上位で選択されている項目と同じレベルにある全ての項目（つまり、全てのデータベース、各データベースの全てのキー、同じキーの全ての構成要素など）の詳細を見ることができます。

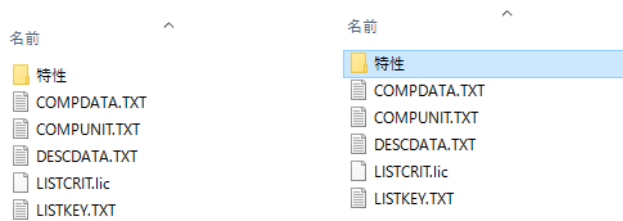
ARCHICAD のデフォルトデータベースには、多数のプリセットキー、構成要素、記述項目、そして一番下にリストされる単位セットが含まれています。



選択したデータベースまたはデータベース項目は、一番上の [削除] ボタンで削除できます。右上の [作成] ボックスでは、新しいデータベースまたはデータベース項目を作成できます。

重要：このダイアログボックスでの操作を終了し、[変更内容を保存] ダイアログボックスで [はい] をクリックすると、対応するデータベースファイルが変更された内容で上書きされます。

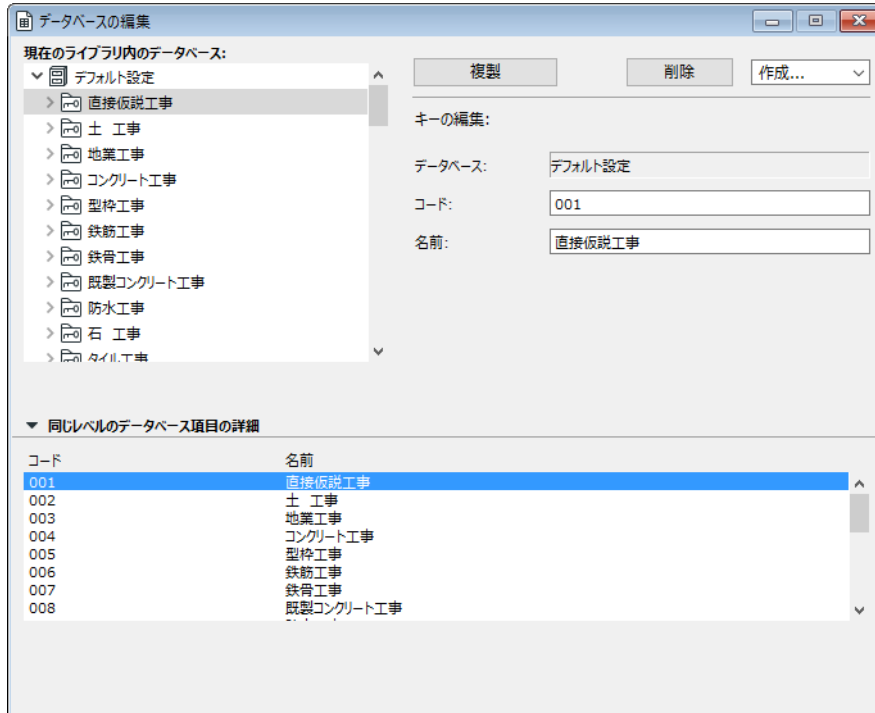
データベースファイルは、ARCHICAD ライブラリ内の [リストテンプレート] サブフォルダに保存することができます。新しいデータベースを作成すると、1 セットの新しいファイルが新しいデータベースの名前で生成されます。



_KEY (キー)、_COMP (構成要素)、_DESC (記述項目)、_UNIT (単位)、および _CRIT (条件割り当て) ファイルのほかにも、新しい _SCHEME (リスト設定) および _MASTER_GDL ファイルも作成されます。

キーの編集

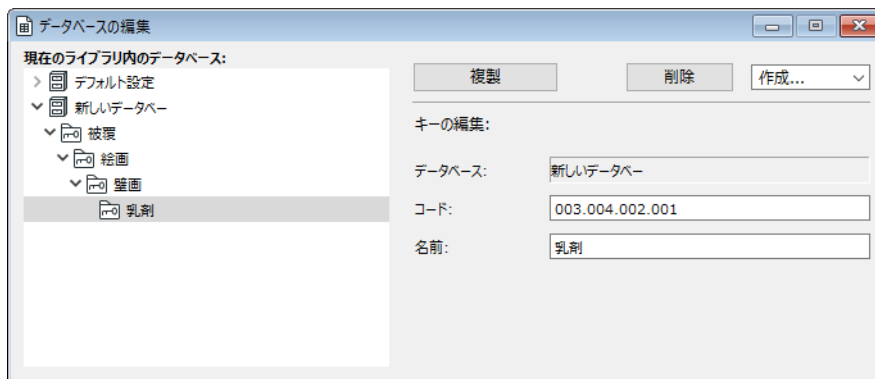
データベース内のキーの名前を強調表示すると、選択したキーのコードと名前をダイアログボックスの右側の該当するボックスで編集することができます。



キーの順番と階層は、コードを使用して定義します：下位のキーは1つ下のレベルに、キーの基本構成要素と記述項目などとともに表示されます。キーコードには、任意の文字を含めることができます。ただし、階層を定めるときは、IPアドレスのようなキーを定義します。つまり、最大4セットのドットで区切られた3桁の数字にします（例えば、"100.200.300.124"）。

キーコード内で区切りを示すドットは、階層の定義に役立ちます。

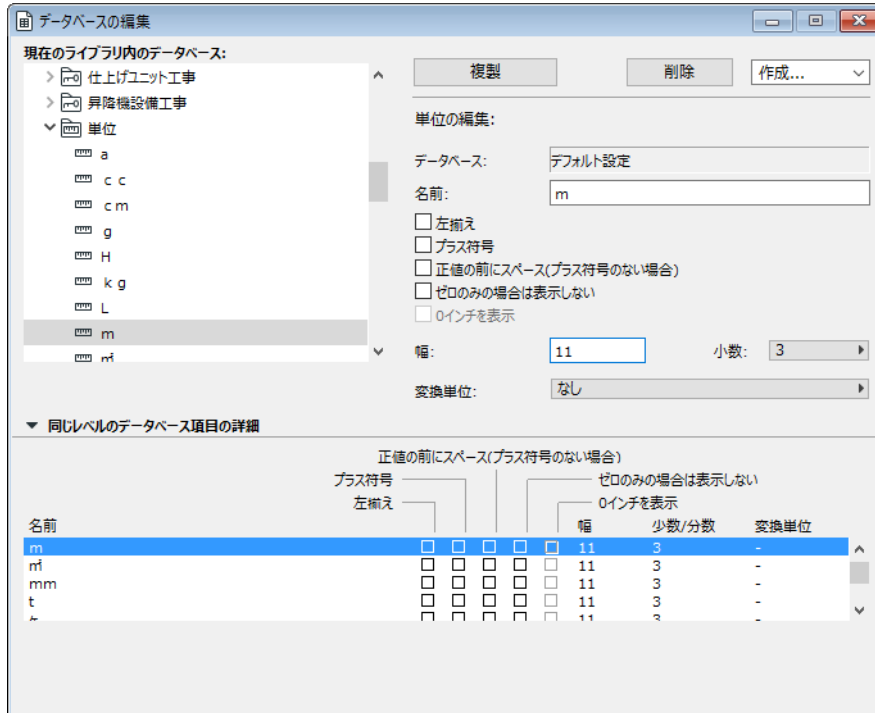
キーは、1つのデータベース内では一意でなければなりません。



第4レベルのサブキーの例

単位の編集

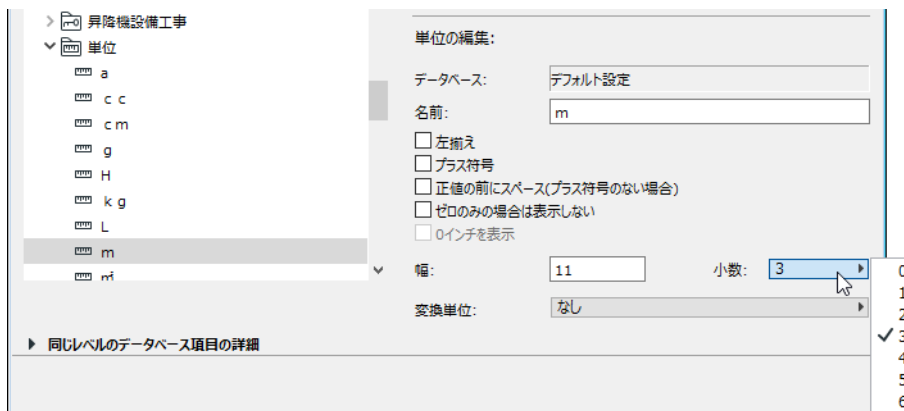
単位の名前を強調表示し、ダイアログボックスの右側のコントロールを使用して選択した単位の属性を編集します。



一番上の行（編集不可）には、選択した単位が属しているデータベースの名前が表示されます。単位の名前は、該当するテキストボックスで編集します。

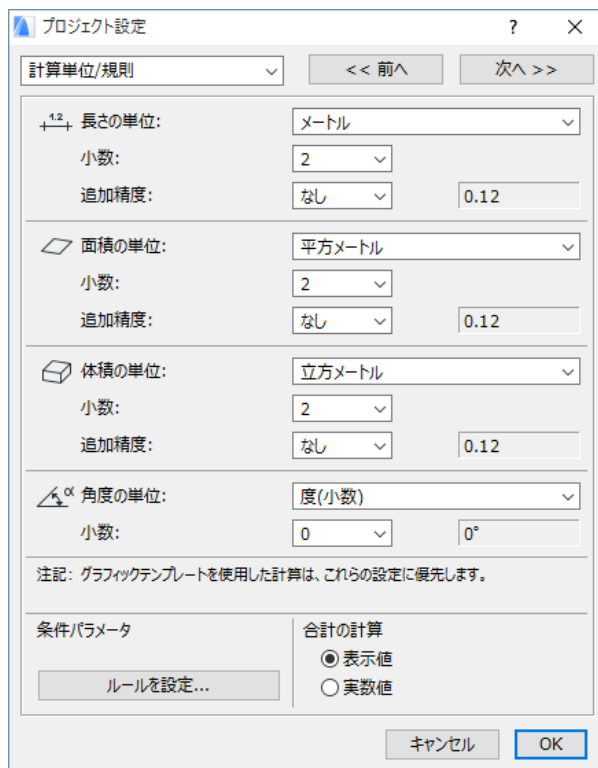
ウィンドウの真ん中の5つのフォーマットオプションは、標準テキストリストでの単位の表示方法を制御します。ここでの設定は、グラフィックテンプレートで無効にできることを忘れないでください。

1. 左揃えされる単位を使用し、計算した値の [左揃え] チェックボックスをチェックすると、[幅] で定義された残りの文字がスペースで埋められます。デフォルトでは、単位は全て右揃えされ、左側の文字位置がスペースで埋められます。
 2. [プラス符号] チェックボックスをチェックすると、値の文字列の1文字目として '+' 符号が挿入され、数値の数を1つ減らすことができます。
 3. [正の値の前にスペース（プラス符号なしの場合）] チェックボックスをチェックすると、1文字目としてスペースが配置され、プラス符号を配置するように指定していない場合、全ての値を左揃えできるようになります。
 4. [ゼロのみの場合は表示しない] チェックボックスをチェックすると、表示する値の絶対値が0から1インチの場合、整数ゼロと小数の区切り文字は表示されません。これは、小数形式で表示する値に適用されます。例えば、建具の幅と高さの場合などです。
 5. 表示する値の絶対値が0から1のときにゼロを表示するには、[ゼロインチを表示] チェックボックスをチェックします。これは、フィートとインチの形式で表示する値に適用されます。
- [幅] ボックスでは、単位の表示時に使用する桁数を設定します。[幅] の値は3桁未満にはできないことに注意してください。



- 右下の方にある [小数] では、レポートで表示される小数点以下の桁数を選択します。
- 選択したデータベースの単位が [計算単位] ダイアログボックスで選択されている単位とは異なる場合は、ダイアログボックスの下の方の [オプション] → [プロジェクト設定] → [計算単位 / 規則] を使用します。このオプションを使用するのが適切でない場合は、一覧の [なし] を選択します。適切な変換単位を選択することで、データベースの単位と計算単位が異なる場合の計算エラーを減らすことができます。

注記：ARCHICAD では、計算は [計算単位] ダイアログボックス ([オプション] → [環境設定] → [計算単位 / 規則]) の設定に従って行われます。ただし、グラフィックテンプレートによりこの設定が無効にされた場合はこの限りではありません。

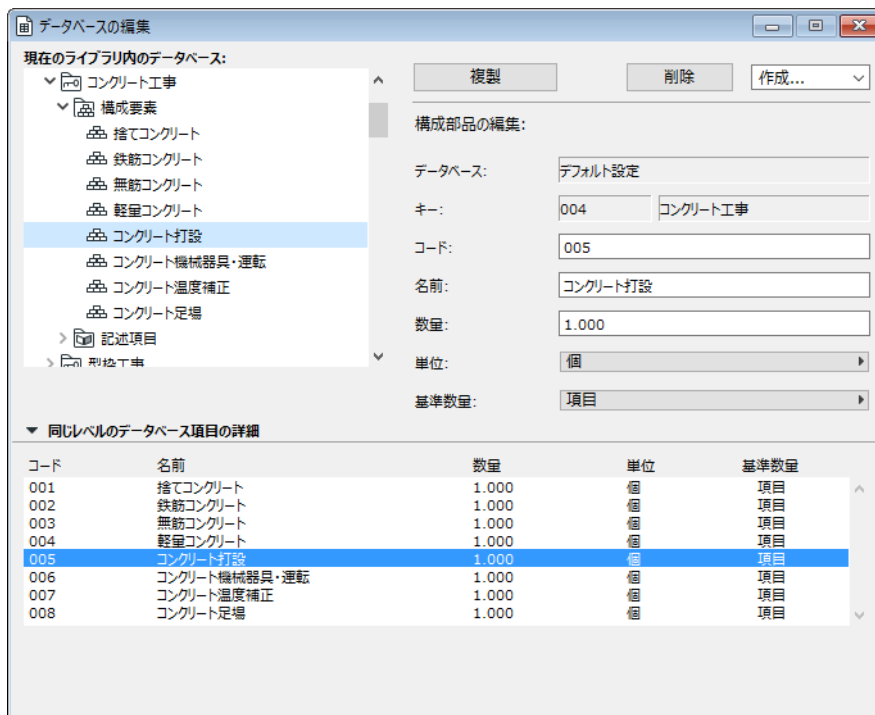


構成要素の編集

[データベースを編集] ダイアログボックスの左側のデータベースツリーのキーの横のプラス記号をクリックすると、選択したキーに構成要素や記述項目がグループ化されているかどうかを見ることができます。次に [構成要素] アイコンを 1 回クリックすると、選択したキーに属している項目を見ることができます。



選択したデータベース内の構成要素レコードのいずれかを編集するには、データベースツリーでその名前を強調表示します。ダイアログボックスの右側に強調表示した構成要素の属性が表示されます。



構成要素タイプのデータベースレコードは、ダイアログボックスの右側の構成要素属性の 2 行目と 3 行目に表示されるキーコードとコードによって識別されます。構成要素のコードは、対応するテキストボックスに新しい番号を入力することで編集できます。

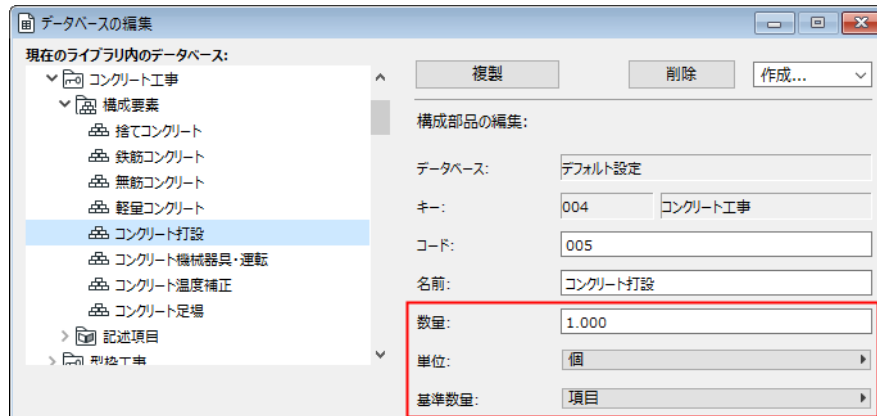
構成要素は、クリック & ドラッグ操作によって、あるキーから別のキーに移動できます。移動する構成要素は、キーが開かれている場合には、新しい場所の [構成要素] フォルダにドロップできます。単純に [キー] フォルダにドロップすることもできます。後者の場合、移動された構成要素は、自動的にこのキーの [構成要素] フォルダに配置されます。

構成要素の名前は直接 [名前] ボックスで編集するか、データベースツリーで名前をクリックして編集します。

構成要素の [属性] コントロール下部の 3 つの行を使用して、次の項目を定義することができます。

- 構成要素の量
- 構成要素の計算に使用する単位

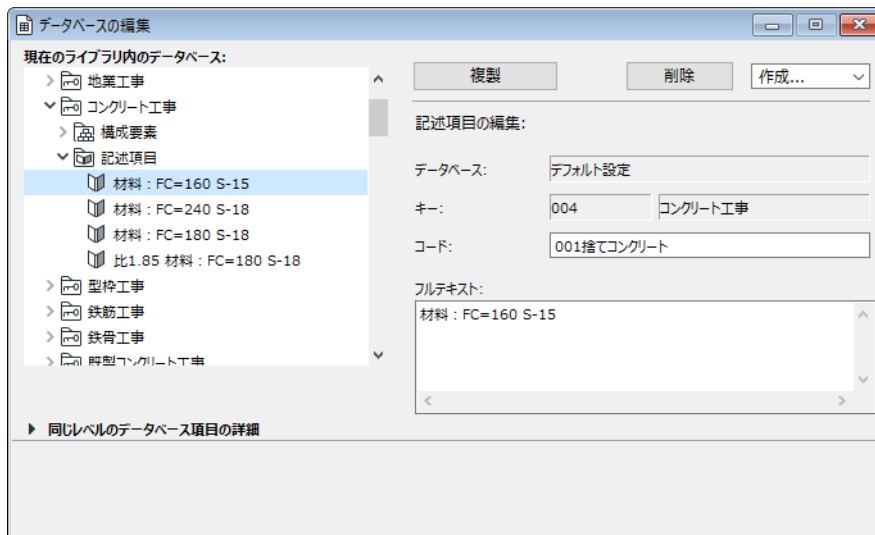
- 基準数量単位ごとの構成要素単位の数（壁の内面積 1 平方メートルごとに 8 枚のタイル、など）



基準数量についての詳細は、「構成要素」を参照してください。

記述項目の編集

記述項目は、[データベースの編集] ダイアログボックス内のデータベースツリーにリストされます。記述項目を選択すると、編集できます。



記述項目は、データベースツリーでのドラッグ & ドロップ操作で、あるキーから別のキーに移動できます。記述項目のテキストは、[フルテキスト] ボックスで直接編集できます。

特性オブジェクト

特性オブジェクトについて

特性オブジェクトファイルは、3D スクリプトを持たない特別な ARCHICAD ライブラリ部品です。特性オブジェクトは、通常は計算を目的として特定の構造を記述するのに使用します（例えば、プロジェクトで使用される鉄筋コンクリート製の梁の数量と詳細説明）。

[前述の「構成要素」と「記述項目」の定義を参照してください。](#)

ヒント：特性オブジェクトをお客様用の料理レシピと考えてみましょう。レシピは、家庭で栽培した材料（ローカル構成要素）、家庭内での調理説明（ローカル記述項目）、お店で購入する必要のある材料（データベース構成要素）、料理本に書かれている調理の説明（データベース記述項目）からなります。材料の量をお客様の人数に合わせて調整する必要があるのと同じように、ARCHICAD においては、ある要素の構成要素の実際の量の計算は、各構成要素と計算される要素の基準パラメータとの間の与えられた関係を基に行われます。

組み立て要素から直接派生したデータでないデータは、特性オブジェクトによって間接的リンクを介して含まれるまたは収集されます。

特性は、組み立て要素の数量および説明を定義するのに使用します。特性定義の2つのタイプが、構成要素と記述項目です。構成要素と記述項目（その他に単位もあります）は、データベース内に置くことも、ローカルに定義することもできます。ローカル特性は、ライブラリ部品専用の全てのライブラリ部品タイプ要素（窓、ドア、オブジェクト、ランプなど）内または特性オブジェクト内で定義することができます。ローカル特性と同様に、特性オブジェクトもデータベース特性にアクセスできます。その後組み立て要素に割り当てられます。

特性オブジェクトは、特定の条件に一致させることによってグローバルに要素にリンクさせることができます。また、異なる要素の設定ダイアログボックスから個別にリンクさせることもできます。

このセクションのトピック

[特性オブジェクトの作成および編集](#)

[構成要素および記述項目の定義](#)

[構成要素および記述項目のデータベースへのリンク](#)

[特性オブジェクトの要素条件へのリンク](#)

[特性の割り当てのための条件の作成](#)

[要素への特性の割り当て](#)

[最後に選択した特性](#)

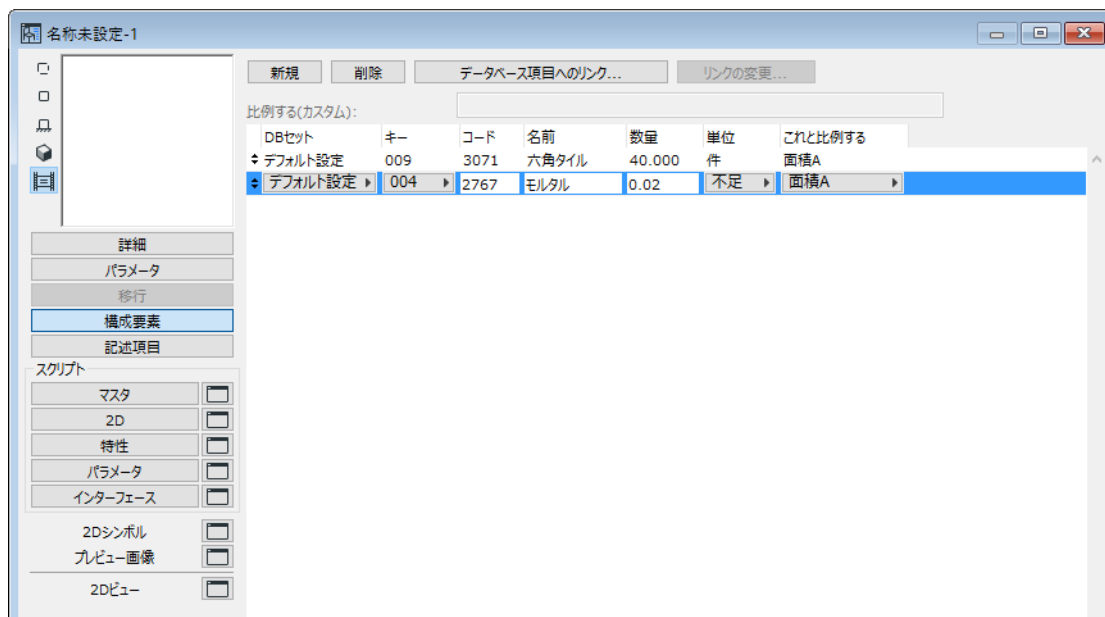
[特性オブジェクトの検索](#)

特性オブジェクトの作成および編集

[計算]メニューの[新規特性]コマンドをクリックすると、新しい空の特性オブジェクトファイルが開くので、このダイアログボックスのコントロールと ARCHICAD の GDL 言語を使用して編集が行えます。このコマンドを選択することは、[ファイル]→[GDL オブジェクト]→[新規オブジェクト]コマンドを選択することと同じです。



[特性を編集]コマンドによって、既存の特性オブジェクトを選択し、そのライブラリ部品のマスタウインドウで特性オブジェクトを編集することができます ([ファイル]→[ライブラリとオブジェクト]→[オブジェクトを開く]コマンドを選択し、特性ファイルタイプを選択することでも、特性オブジェクトを編集できます)。



注記：ARCHICAD プロジェクトでいずれかの組み立て要素を選択しているときにこのコマンドを選択すると、全ての直接割り当てられている特性オブジェクトが自動的に開かれます。

特性オブジェクトタイプのライブラリ部品には、3D スクリプトまたは 3D ビューはありません。その他の点では、利用できるコントロールはほかのライブラリ部品タイプと似ています。これについては、ARCHICAD の『リファレンスガイド』で説明しています。

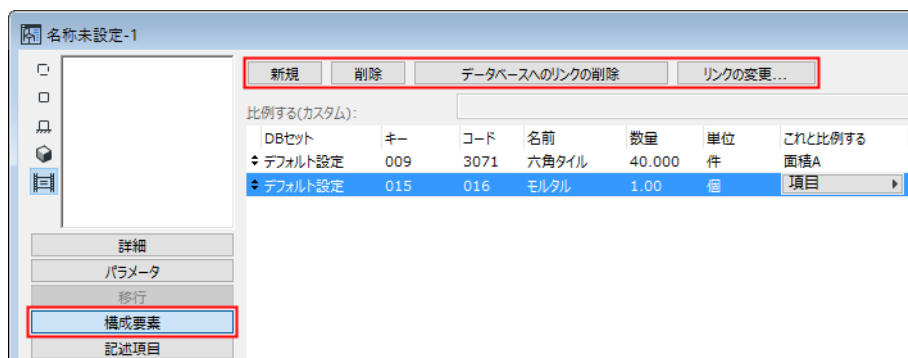
詳細については、ARCHICAD ヘルプの「GDL マスタウインドウ」の章を参照してください。

構成要素および記述項目の定義

特性を定義するときは、最初に、これを別の要素に割り当てるのか、特性オブジェクトの異なる特性の組み合わせの一部となるのか、またこれを使用するライブラリ部品は1つだけであるかを決める必要があります。

- 非常に珍しいオブジェクトの特性（例えば、カスタムメイドのトラスのコーティング）は、ライブラリ部品内でローカルに定義するのが最適です。
- もっと一般的な特性（例えば、鉄筋コンクリート製のビル要素の構築に必要なセメントの量）は、特性オブジェクト内でローカルに記述する方が適しています。このようにすれば、似たような要素もこの特性を参照できます。
- 複数の特性の組み合わせで使用されることが見込まれる、最も一般的な特性（例えば、壁を塗るのに必要なペンキの量のような構成要素、そして一般的な安全上の注意のような記述項目）は、データベース特性として定義するのが最適です。このようにすれば、全ての特性オブジェクトがこれを参照できます。

ライブラリ部品のマスタウィンドウの左側にある [構成要素] をクリックします。ウィンドウの一番上に構成要素のコントロールが表示されます。



新しい構成要素の行を作成するには、[新規] ボタンをクリックします。

コード、名前、数量のフィールドに値または文字列を入力して、新しい構成要素の対応する属性を定義します。

[これと比例する] の一覧で構成要素の基準数量（項目、長さ、表面積、体積）を選択します。

次の表は、ARCHICAD の要素タイプのさまざまなパラメータを参照する構成要素を示しています。

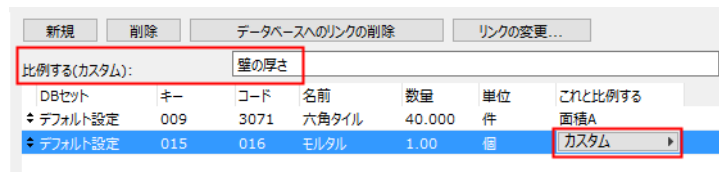
基準要素	長さ	面積 A	面積 B	面積 C	体積
壁	(基準 + 反対) / 2 (1)	基準 (1)	反対 (1)	基準 + 反対	合計体積
柱	最大高さ	仕上げ	仕上げ	仕上げ	躯体 + 仕上げ
梁	(左 + 右) / 2	左側面 (2)	右側面 (2)	合計	合計体積
スラブ	外周	上面	下面	上面 + 下面	合計体積
屋根	外周	上面	下面	上面 + 下面	合計体積
メッシュ	外周	上面	下面	合計	合計体積
ゾーン	外周	面積	面積	面積	合計体積
オブジェクト	X 軸方向 (A)	0	0	合計	合計体積
ドア / 窓	開口幅	幅 x 高さ	幅 x 高さ	ライブラリ部品要素の表面	ライブラリ部品要素の合計体積

注記：

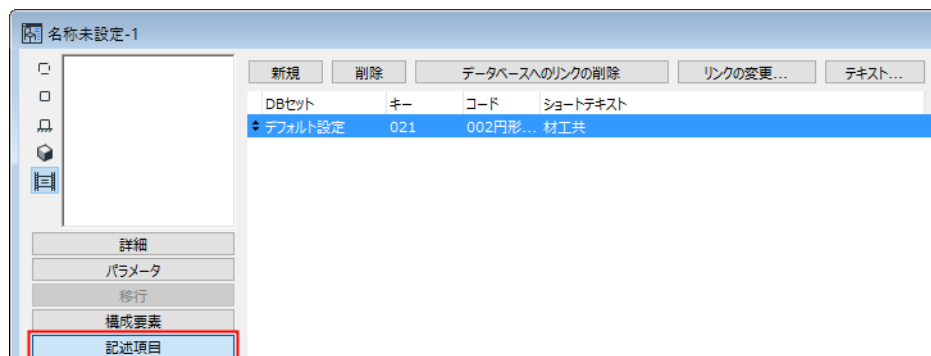
1. 外壁側抱きのある開口部周りの表面と外壁側抱きの奥行きに沿った表面を含む。「基準」とは壁の基準線側、「反対」は壁の基準線側と逆の側面を意味しています。
2. 梁の向きによって定義される左側面と右側面。梁が垂直以外の角度で壁に接続されている場合には、左右が違う場合があります。

いくつかの値は、意図的に該当する要素リストの値とは異なっています。これは、対応付けられた構成要素は通常別の表面を基に計算されるからです。例えば、壁の塗装面積を計算したいとします。この場合、必要なのは壁のエッジ表面ではなく、基準面および反対側の合計面積になります。

特別な基準を定義するには、[これと比例する]の一覧の[カスタム]を選択します。これにより、[これと比例する]ヘッダーが指し示すフィールドがヘッダーの一番上で有効になります。グローバル変数およびローカル変数を使用して GDL 式を入力してください。

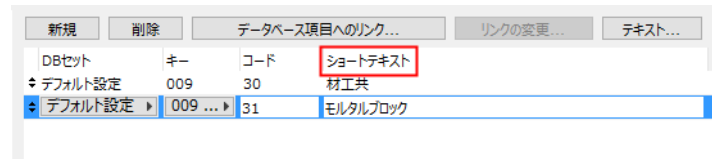


記述項目も同じような方法で定義します。[記述項目]をクリックして、ウィンドウの一番上に対応するコントロールを表示させます。

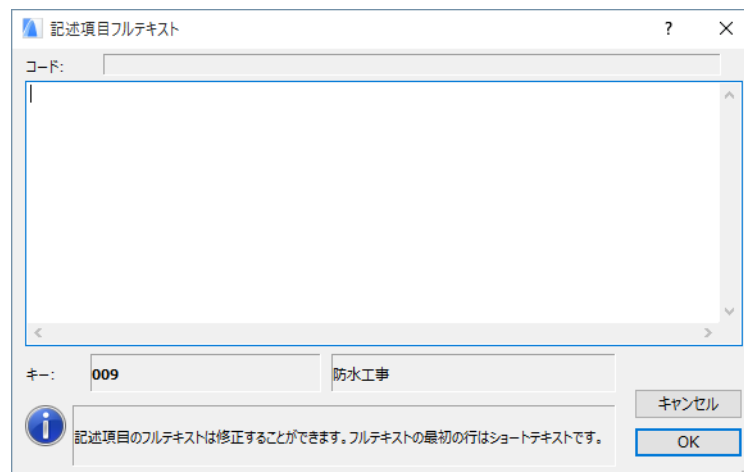


新しい記述項目の行を作成するには、[新規]をクリックします。

コードフィールドに値を入力し、対応するフィールドにショートテキスト（最初の行）を入力します。

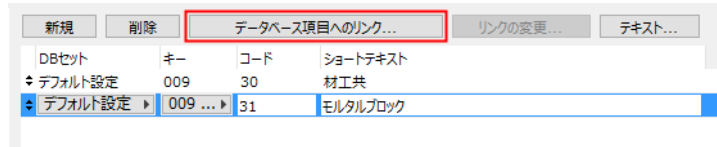


[テキスト] ボタンをクリックすると、[記述項目フルテキスト] ダイアログボックスが開くので、部品、要素、または構造の長い説明を入力することができます。この説明には、技術的なパラメータや仕様、またはその他の役に立つ組み立て指示や安全上の注意を含めることもできます。

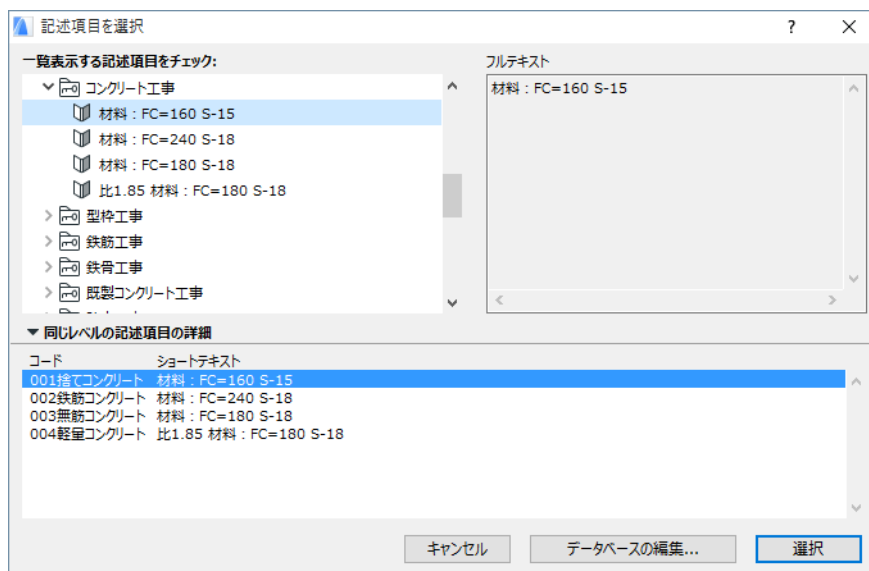


構成要素および記述項目のデータベースへのリンク

特性オブジェクトで定義されている構成要素または記述項目がデータベース項目で識別されるようにするには、これを特性オブジェクトのマスタウィンドウのリストから選択し、ダイアログボックスの一番上の [データベース項目へのリンク] をクリックします。

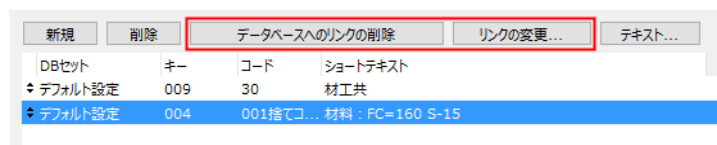


[構成要素を選択] または [記述項目を選択] ダイアログボックスが表示されます。選択したデータベース内の全ての関連項目から選択を行うことができます。



特性オブジェクトの構成要素または記述項目がデータベースに関連付けされている限りは、この項目はデータベースを更新するたびに更新されます。

選択した構成要素または記述項目が既にあるデータベース項目にリンクされている場合は、リンク設定ボタンの名称が [データベースへの関連付けの削除] に変わり、[関連付けの変更] も有効になります。このようになったら、データベース項目へのリンクを解除するか、別の項目へのリンクに置き換えます。

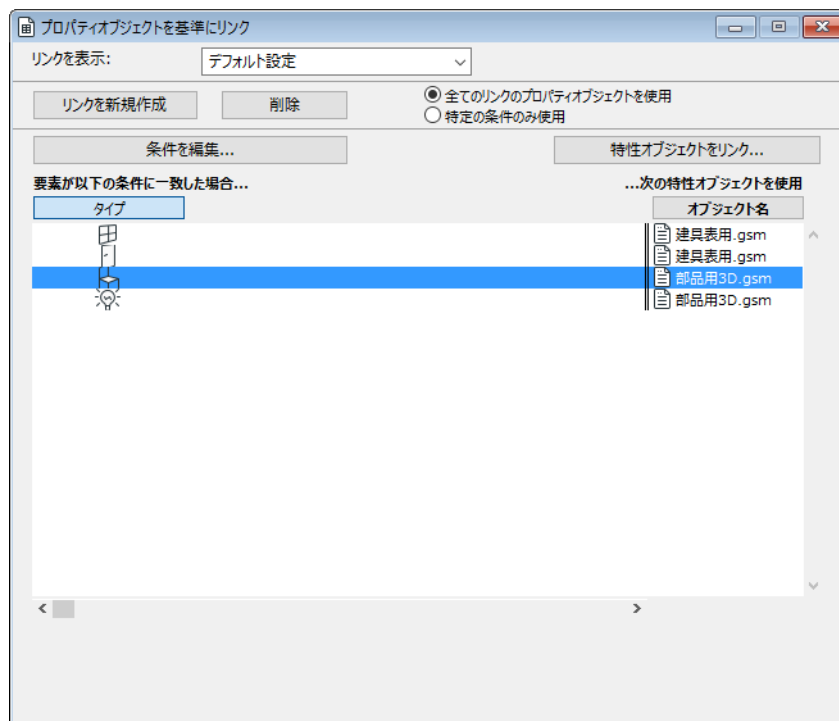


オブジェクト固有の項目は標準テキストで、データベース項目は斜体で、見つからないデータベース項目の名前はグレーで表示されます。

特性オブジェクトの要素条件へのリンク

特性オブジェクトを組み立て要素に割り当てるのに使用する要素パラメータ（タイプ、ペンカラー、サイズ、材質など）の組み合わせを定義するには、[特性を条件にリンク] コマンドをクリックします。

デフォルトセットのリンクを示すダイアログボックスが開きます。

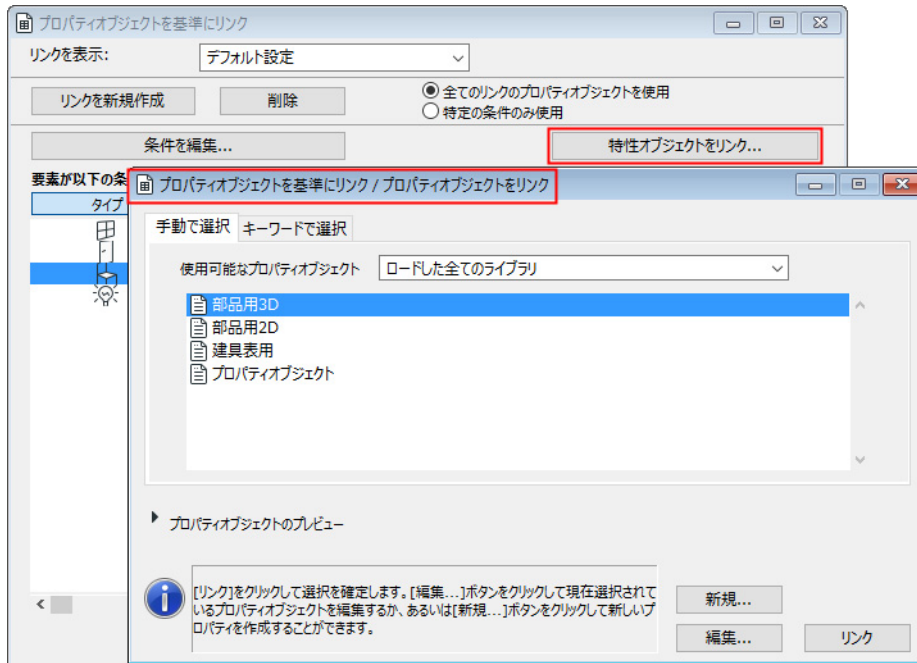


組み立て要素（左側）と特性オブジェクト（右側）とのリンクは、要素タイプとさまざまな共通の属性またはツール固有の属性を含む、条件セットに基づいています。[条件を編集] をクリックして [条件を選択] ダイアログボックスを開きます（[下記の説明を参照](#)）。

[特性のリンク] ダイアログボックスには、4つのパラメータが同時に表示されます。利用可能なパラメータを全て表示させるには、条件リストの一番下の水平スクロールバーを使用します。

いずれかの列ヘッダーをクリックすると、リストがアルファベット順にソートされます。

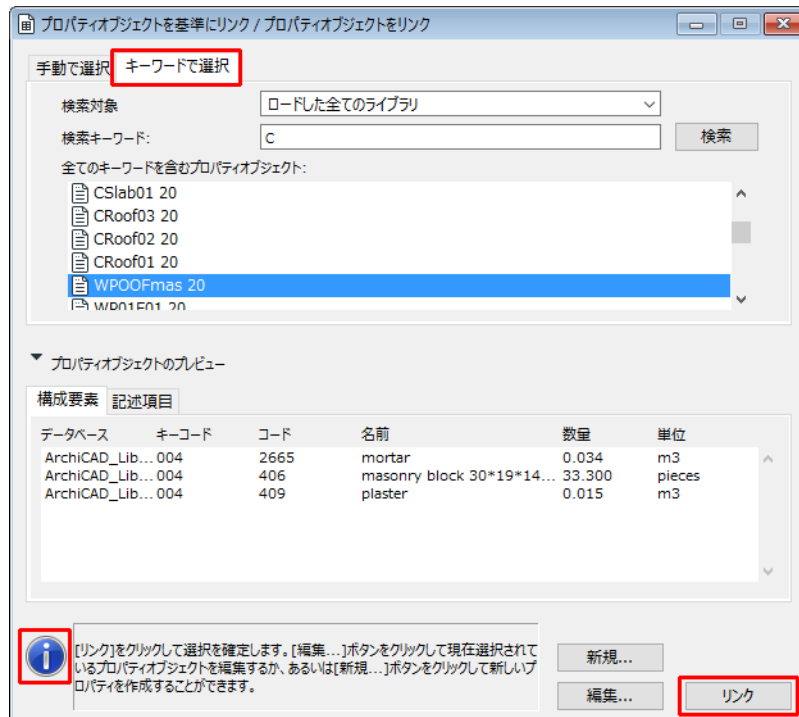
特性オブジェクトを条件にリンクする、または既に割り当てられている特性オブジェクトを変更するには、リスト内の条件を強調表示した状態で、ダイアログボックスの右上の [特性オブジェクトをリンク] をクリックします。これにより、[特性を条件にリンク] または [特性のリンク] が表示されます。



[手動で選択] タブページには、現在のライブラリ内の利用できる特性オブジェクトがアルファベット順にリストされます。リストでは、現在割り当てられている特性オブジェクトが強調表示されます。強調表示された特性オブジェクトの構成要素や記述項目を表示するには、ダイアログウィンドウの [特性のプレビュー] セクションを開きます。

選択した条件に割り当てる特性オブジェクトを強調表示します。

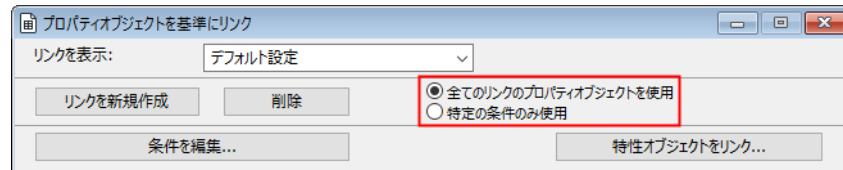
現在のライブラリで特性オブジェクトを検出する場合は、[キーワードで選択] タブをクリックします。該当するボックスにキーワードを入力し、[検索] をクリックして特性オブジェクトをリストします。



- [リンク] をクリックすると、選択が確定されます。
- [編集] をクリックすると、強調表示された特性オブジェクトが開きます。

- ・ [新規] をクリックすると、新しい特性オブジェクトが作成されます。

[プロパティオブジェクトを基準にリンク] ダイアログボックスには、パラメータが部分的に一致する複数の条件を解釈する方法を選択する2つのラジオボタンがあります。



[全てのリンクのプロパティオブジェクトを使用] は、単純な条件に割り当てられる特性オブジェクトとより具体的な条件で割り当てられる特性オブジェクトの両方が、一致する要素に適用されることを意味します。次に例を示します。

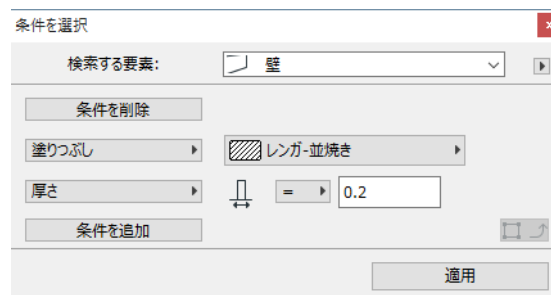
単純な条件に、壁のタイプと無地のレンガの塗りつぶしの2つのパラメータのみを含めると、これに対して割り当てられるのは構成要素がレンガとモルタルである特性オブジェクトです。

より具体的な条件に3つのパラメータを含め、その内の2つである壁のタイプと無地のレンガの塗りつぶしは単純な条件と同じとします。3番目のパラメータを胡粉材質とすると、その結果割り当てられる特性オブジェクトの唯一の構成要素はしっくいになります。この場合、より明確な条件と一致する組み立て要素には、しっくい構成要素だけでなくレンガとモルタルの構成要素も適用されることとなります。単純な条件のみが一致する要素（しっくいでない壁）には、レンガとモルタルが適用されますが、しっくいは適用されません。

[より明確な基準だけを使用] をクリックすると、より具体的な条件との一致が、単純な条件との一致を無効にします。特定の条件が一致する要素には、その特定のパラメータの組み合わせにリンクされている特性オブジェクトのみが適用されます。上記の例では、3つのパラメータによる条件と一致する要素には、しっくい構成要素のみが適用されます。

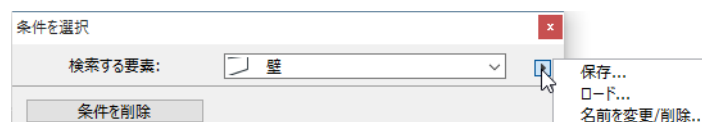
条件は、1回に1つずつしか選択および編集できません。

[条件を編集] をクリックすると、[条件を選択] ダイアログボックスが開きます。

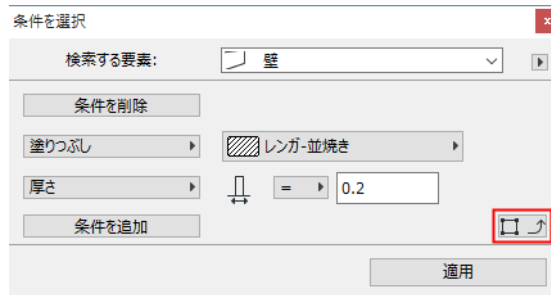


[検索する要素] ボックスから現在の条件の要素タイプを選択して、必要に応じて[条件を追加] をクリックすることにより、追加の条件を選択および定義します。

[条件を選択] ダイアログボックスの右上にあるリストでコマンドを使用して、条件セットの保存、ロード、改名、または削除を実行します。クリックしたリスト項目によって対応するダイアログボックスが開き、希望の操作を実行することができます。



[設定をコピー] ボタンは、組み立て要素がプロジェクトで選択されている場合のみ有効です。パラメータの値を選択されている要素と一致するように設定するには、このボタンをクリックします。



注記：この操作で要素タイプも設定されます。

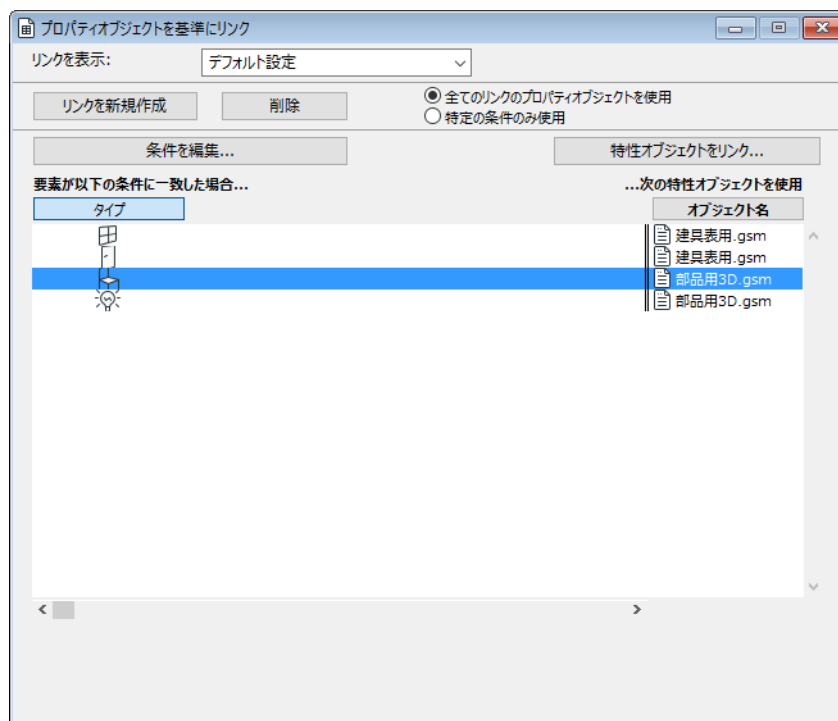
条件リストを更新するには、[適用]をクリックします。

特性の割り当てのための条件の作成

特性情報を使用する計算レポートを作成するためには、特性データを組み立て要素とリンクする必要があります。

特性は、条件を使用してまたは個別に組み立て要素とリンクすることができます。

条件を使用した割り当ては、[特性を条件にリンク] コマンドで定義します。



各特性オブジェクトは、要素選択条件の一意的な組み合わせにリンクできます。例えば、「コンクリート壁」と呼ばれる特性オブジェクトは、コンクリートブロック塗りつぶしで、ペン番号 12 で描かれ、「外壁」レイヤーに配置された壁全てにリンクできます。このオプションがオンのとき、ARCHICAD はプロジェクトの組み立て要素をフィルタし、与えられた条件と一致する全ての要素と特性オブジェクトを自動的にリンクします。条件セットは現在のライブラリ内に保存されるため、複数のプロジェクトで使用可能です。

注記：この割り当て状況は、要素を選択し、その設定ダイアログボックスを開き、[リストパネル] をクリックすることで確認できます。

注記：リストパネルはデフォルトでは表示されません。構造要素の設定で有効にするには、[オプション] → [作業環境] → [ツール設定ダイアログボックス] に移動してください。

設定ダイアログボックスや [情報ボックス] の [リストパネル] で、各要素に対して直接個別にプロパティデータを選択して割り当てることもできます。

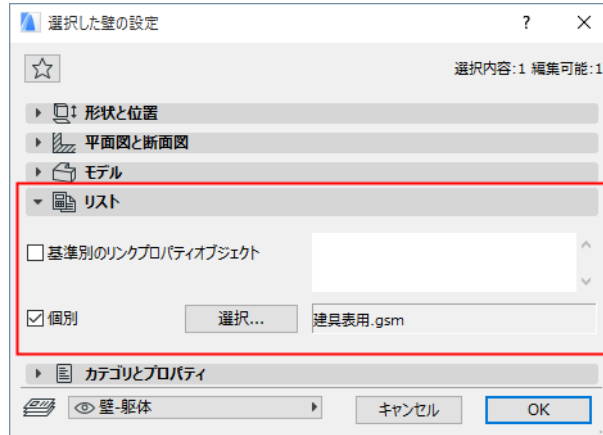
注記：リストパネルはデフォルトでは表示されません。構造要素の設定で有効にするには、[オプション] → [作業環境] → [ツール設定ダイアログボックス] に移動してください。

条件ベースのリンクと直接割り当てを組み合わせることもできます。

「特性オブジェクトの作成および編集」も参照してください。

要素への特性の割り当て

設定ダイアログボックスで組み立て要素を編集するときは、[リストパネル]で要素に特性オブジェクトを割り当てることができます。



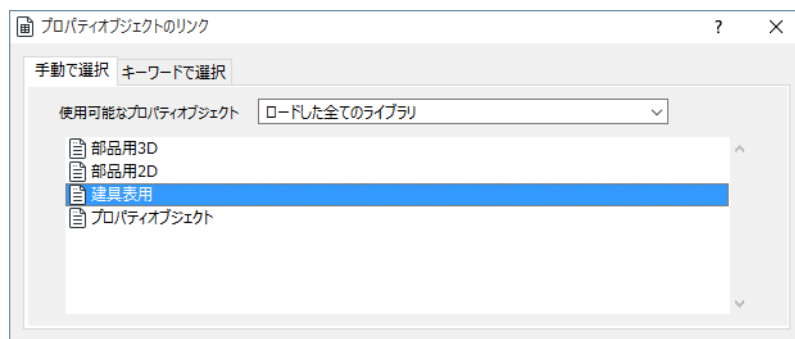
注記：パネルはデフォルトでは表示されません。構造要素の設定で有効にするには、[オプション]→[作業環境]→[ツール設定ダイアログボックス]に移動してください。

このリンクは、条件別にまたは個別に設定できます。

条件を使用して特性オブジェクトを割り当てる（つまり、[プロパティオブジェクトを基準にリンク]ダイアログボックスで行った条件選択と一致する全ての要素に割り当てる - [上記参照](#)）には、[リストパネル]の[基準別のリンクプロパティオブジェクト]チェックボックスをオンにします。これらの条件と一致する特性オブジェクトがパネルに表示されます。

特定の要素に対する特定の割り当てを作成することによってこの設定を無効にすることもできます。この場合、[基準別のリンクプロパティオブジェクト]チェックボックスをオフにし、その下の[個別]チェックボックスをオンにして、[選択]をクリックします。

注記：両方のチェックボックスを同時にオンにして、組み合わせられた割り当てを作成することができます。



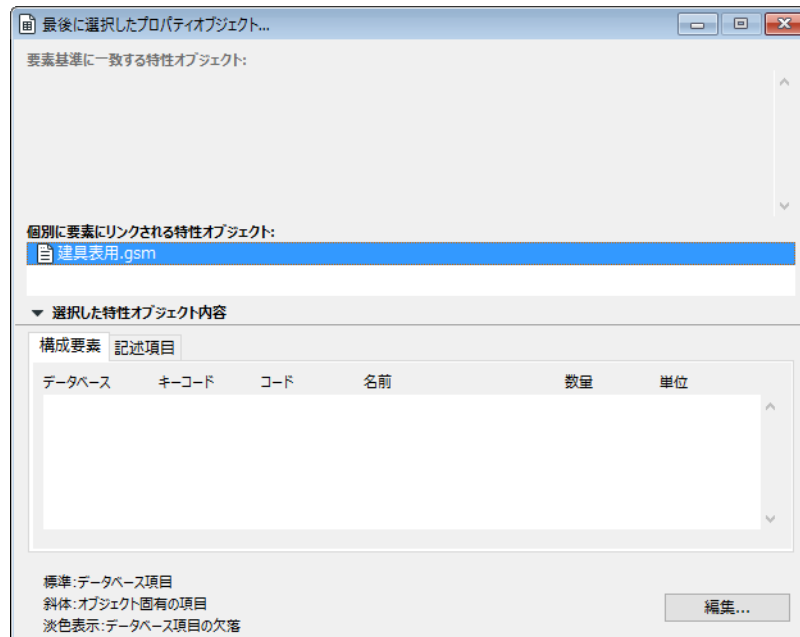
特性オブジェクトの手作業での割り当てまたはキーワードを使用した割り当ては、この章の最初の方で説明したように、条件を使用した割り当てと同じ方法で行うことができます。

最後に選択した特性

選択した特性オブジェクトを設定ダイアログボックスから直接編集することはできません。[最後に選択した特性]コマンドを使用して、割り当てられた組み立て要素の特性オブジェクトにアクセスします。

プロジェクトで組み立て要素を選択している場合は、[最後に選択した特性]を使用すると選択した要素にリンクされた特性オブジェクトを表示できます。

特性オブジェクトを選択すると、ダイアログボックスの[内容]セクションにその詳細が表示されます。



特性オブジェクトを選択して[編集]ボタンをクリックすると、選択した特性オブジェクト項目がオブジェクト固有であれば、ライブラリ部品エディタで直接修正することができます。選択した項目がデータベースに属する場合は、ウィンドウの右上にある[リンクの変更]ボタンをクリックすればこの項目を修正できません。

特性オブジェクトの検索

特定の構成要素または記述項目を含む特性オブジェクト、または特定のデータベースまたは特定のキーへのリンクを含む特性オブジェクトは、検索しなければならない場合があります。

下記の2つのコマンドは、必要なオブジェクトの検索に役立ちます。

- 特性オブジェクトを特性で検索
- 特性オブジェクトを要素で検索

これらのコマンドを使用して、一連の条件に基づいて検索を行います。

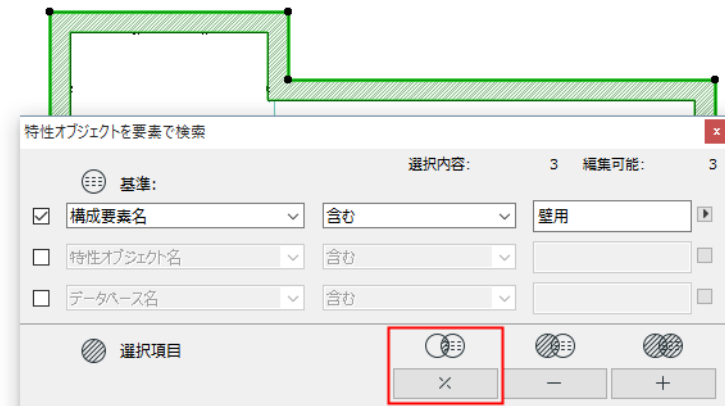
特性オブジェクトを特性で検索

必要に応じて条件や検索用語を入力してから、[特性オブジェクトを検索] をクリックします。

特性オブジェクト名を強調表示して [編集] をクリックすると、[特性を編集] ダイアログボックスが開きます。

構成要素名に「タイル」というテキストを持つ、ARCHICAD データベース内の全ての特定オブジェクトを検索するとします。以下の2つの条件を選択します。

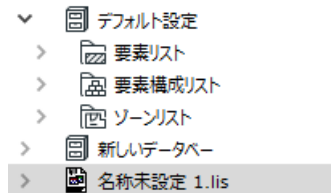
特性オブジェクトを要素で検索



平面図で全ての壁が選択されています。飾りクギを持つ壁だけを見つけます。上記の条件を入力し、[断面] ボタンをクリックします ([選択と条件]の[断面])。この結果、名前に「飾りクギ」がある要素を含む特性オブジェクトをもつ壁のみが選択されます。

リスト設定とテンプレート

リスト設定は、リスト エンジンがプロジェクト情報を処理および表示する方法を制御するための、出荷時のデフォルトの命令セットまたはユーザー定義の命令セットです。リスト設定は、独立したファイルとすることも、データベース内に存在させることもできます。



リスト設定には、要素タイプ、構成要素タイプ、およびゾーンタイプがあります。

また、要素、構成要素、およびゾーンのリストの定義を含む完全なリスト設定ファイルを作成することもできます。

リスト設定は、さまざまなニーズに合うような構成とすることができます。また、新しい設定は、[リスト設定] コマンドで呼び出した [リスト設定] ダイアログボックスで作成できます。さらに、グラフィック出力は、[フォーマットウィザード] (Windows) または [フォーマットアシスタント] (Mac) を使用してかなりの部分をカスタマイズできます。

「[フォーマットウィザード]/[フォーマットアシスタント]の使い方」を参照してください。

テンプレート

グラフィックリスト設定は、リストの構造、レイアウト、および内容に関する情報を含むテンプレートに基づいています。

テンプレートは、次の2つのタイプとすることができます。

- テンプレートファイルは、現在のライブラリ内にある単純なテキストファイルです。これらのファイルは工場から出荷されるか、手動で作成します。組み込まれているテンプレートを外部ファイルとして保存することで、このようなテンプレートのコピーを作成することもできます。
- フォーマットウィザードで作成された組み込みテンプレートは、リスト設定自体の中にあります。組み込みテンプレートは、[リストを設定] ダイアログボックスの [リスト形式] タブページの [一覧表に含める] チェックボックス ([この後の説明を参照](#)) をオフにすることでテンプレートファイルに変換することができます。

注記：

- テンプレートは、単純なプログラミング言語にコード化されています。構文を十分に理解している場合を除き、これらのファイルは編集しないことを強くお勧めします。
- テンプレートファイルは、[フォーマットウィザード] では編集できません。

レコードとフィールド

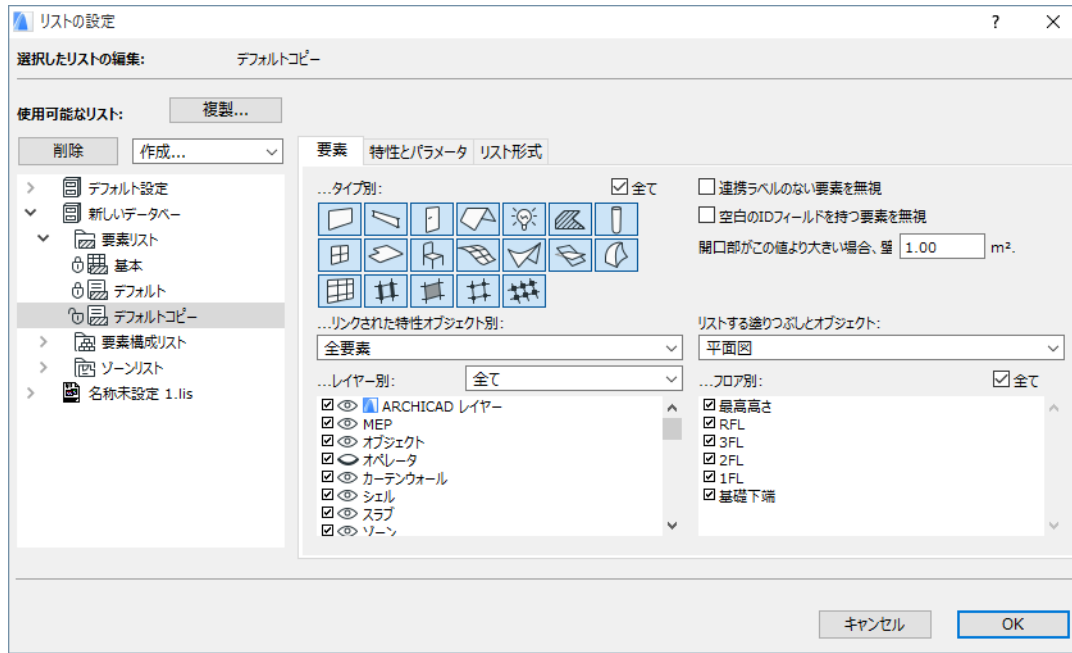
グラフィックテンプレートは、レコードと呼ばれる情報単位を表示および印刷するためのレイアウトを定義します。レコードは、非常にたくさんのフィールドと1つのビットマップ画像を含むことのできる小さなレイアウトです。フィールドは、英数字データの単位です。フィールドの内容は、ARCHICAD のリストエンジンによって、収集され、フィルタされ、計算されます。ビットマップは、現在のライブラリ、ARCHICAD オブジェクトシンボル、特性オブジェクトおよびオブジェクト自体によって生成された 3D 図面、または現在

のライブラリ内の ARCHICAD ライブラリ部品のプレビューピクチャのいずれかからの外部画像ファイルとすることができます。


[「グラフィックテンプレート」](#) および [「\[フォーマットウィザード\]/\[フォーマットアシスタント\]の使い方」](#) を参照してください。

[リストを設定] ダイアログボックス

[リストを設定] コマンドをクリックすると、詳細なダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでは、必要なレポートの作成のために ARCHICAD によって計算される要素のタイプ、構成要素、またはゾーンを定義したり、出力の複雑度とフォーマットを定義できます。

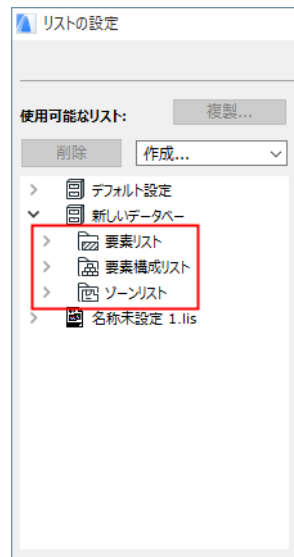


このダイアログボックスを表示させるには、[リストを設定] コマンドをクリックします。

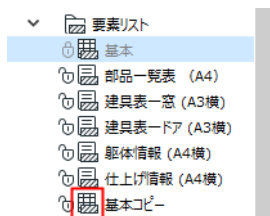
データベースツリー（ダイアログボックスの左側）には、書類整理棚（）アイコンでマークされた利用可能なデータベースと [リスト設定] フォルダ内のリスト設定が表示されます。このリストには、現在のライブラリ内に配置されたデータベース内にある全てのリスト設定が含まれます。

注記：リスト設定は、プロジェクトの埋め込みライブラリに保存した場合のみチームワークプロジェクトで有効になります。

リスト設定は階層構造になっており、タイプ別に、要素、構成要素、ゾーンの3つのフォルダに編成されています。各フォルダには、ライブラリが全くロードされていなくても、少なくともいくつかのデフォルト設定と1つの基本リストは含まれています。



ユーザー定義の設定は、デフォルト設定の下の同じ階層に表示されます。プレーンテキストの設定には、スプレッドシートのようなアイコンが付いています。

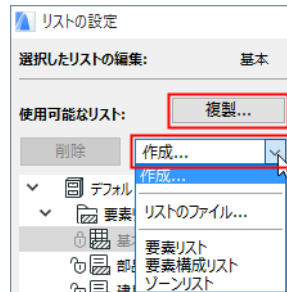


- データベースに属する設定は、属しているデータベースからのみリストを作成できます。
- どのデータベースにも属していない設定は、全てのロードされているデータベースのリストの作成に使用できます。

ツリーからリスト設定を選択すると、右側にその設定が表示されます。

リスト設定の管理

[作成] をクリックしてリスト設定を新規作成するか、または既存のリスト設定を選択して [複製] をクリックします。



注記：リスト設定は、プロジェクトの埋め込みライブラリに保存した場合にのみチームワークプロジェクトで有効になります。

名前を選択してテキストを再入力すると、名称未設定の新しい設定やその他のリスト設定の名前を変更することができます。

南京錠トグルをクリックして、リスト設定の編集をロックまたはロック解除します。



リスト設定を削除するには、名前を選択し、[削除] をクリックします。

重要：[リストを設定] ダイアログボックスの [OK] をクリックすると、プロジェクトの環境設定ファイルおよびライブラリ内に置かれている LISTSET.TXT データベースファイルに格納されているリスト設定は、変更されたリスト設定で上書きされます。

- プロジェクトファイルを開かずに ARCHICAD を起動すると、リスト設定は環境設定ファイルからロードされます（リスト設定ファイルである *.list は、ロードされているライブラリのいずれからもロードされません）。
- プロジェクトファイルを開くと、プロジェクトに格納されているリスト設定がロードされます（リスト設定ファイル (*.list) は、プロジェクトライブラリからはロードされません）。
- [ファイル] → [ライブラリとオブジェクト] → [ライブラリマネージャー] をクリックすると、選択したライブラリのいずれかで検出された全てのリスト設定 (*.lis) がロードされます。

注記：リスト設定は、プロジェクトの埋め込みライブラリに保存した場合にのみチームワークプロジェクトで有効になります。

リスト設定の編集

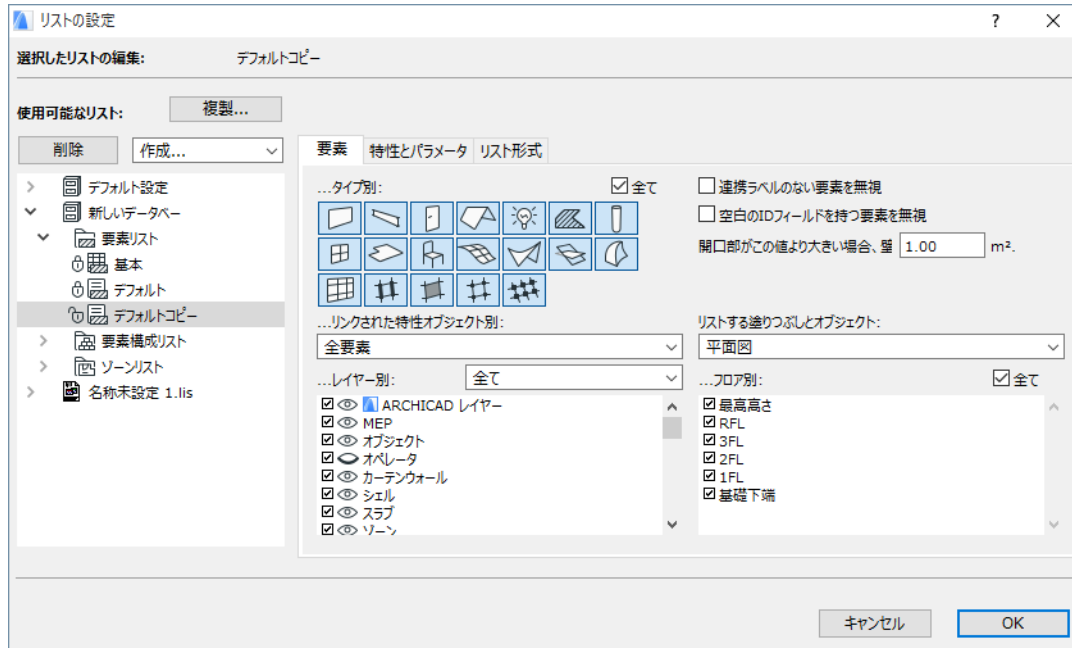
ロック解除されているリスト設定は、左側の [使用可能な一覧表] 領域から選択することで、編集、修正、およびカスタマイズを行うことができます。

選択したリスト設定のタイプによって、ダイアログボックスの右側には3つまたは4つのタブページが表示されます。

- 要素または構成要素のリスト設定を選択すると、[要素]、[特性とパラメータ]、[リスト形式] の3つのタブページが表示されます。
- 選択したリスト設定がゾーンリストの場合は、[ゾーン]、[特性とパラメータ]、[関連要素]、[リスト形式] の4つのタブページが表示されます。ページを切り替えるには、タブをクリックします。

[要素] タブページ

これは最初のタブページです。計算される組み立て要素を選択するには、このページのコントロール（フィルタ）を使用します。



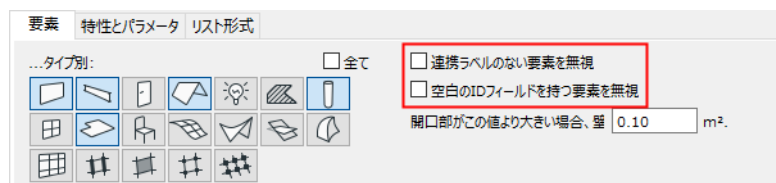
要素タイプでフィルタ



おなじみのツールアイコンで表されたフィルタボタンを使用して、リストする要素タイプとレポートの計算から除外する要素タイプを決定します。全ての組み立て要素タイプを選択するには、[全て]チェックボックスをオンにします。

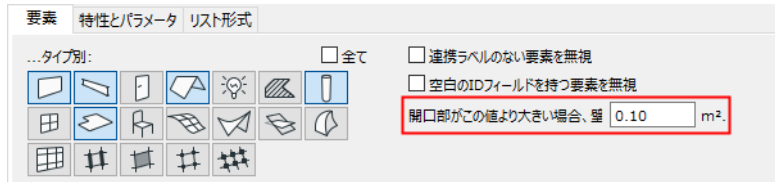
注記：[全て]チェックボックスをオフにすると、最後に使用したカスタム設定が有効になります。

ラベルおよび ID によるフィルタ



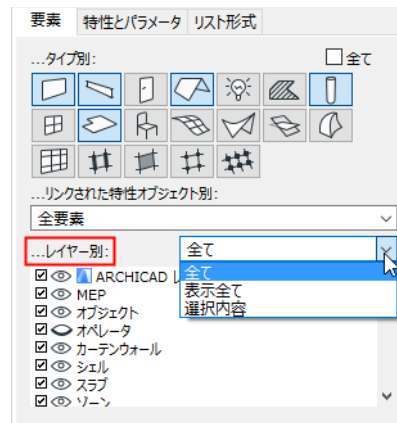
これらのチェックボックスを使用して、連携ラベルのない要素や関連 ID のない要素の要素リストをさらにフィルタリングします。

開口サイズに基づく壁減算の量



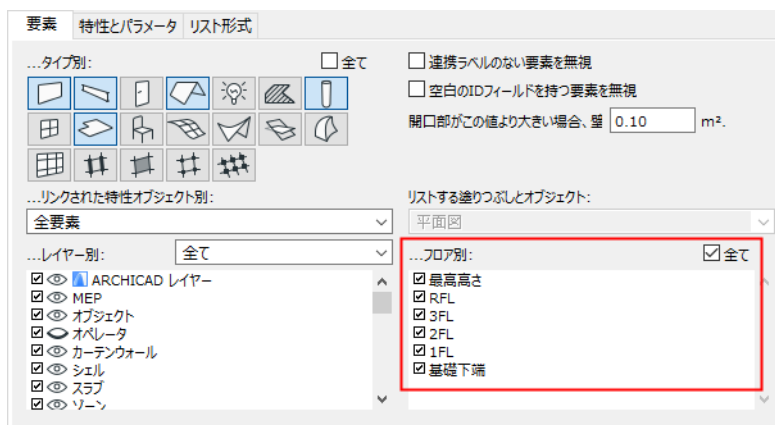
[壁減算の量] オプションでは、壁の面積および体積の計算時に ARCHICAD によって対象とされる壁の開口部の最小サイズを設定できます。サイズの限界値を、該当地域の建築基準法またはプロジェクト要件に従って、ボックスに入力します。

レイヤー別フィルタ



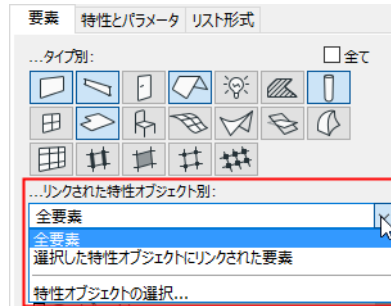
チェックマークがオフになっているレイヤー上の要素は、計算されません。ボックスの一覧で、全てのレイヤー ([全て])、可視レイヤー ([可視])、または選択レイヤー ([選択内容]) を選択して該当するレイヤー上の要素が表示されるようにすることができます。

フロア別フィルタ



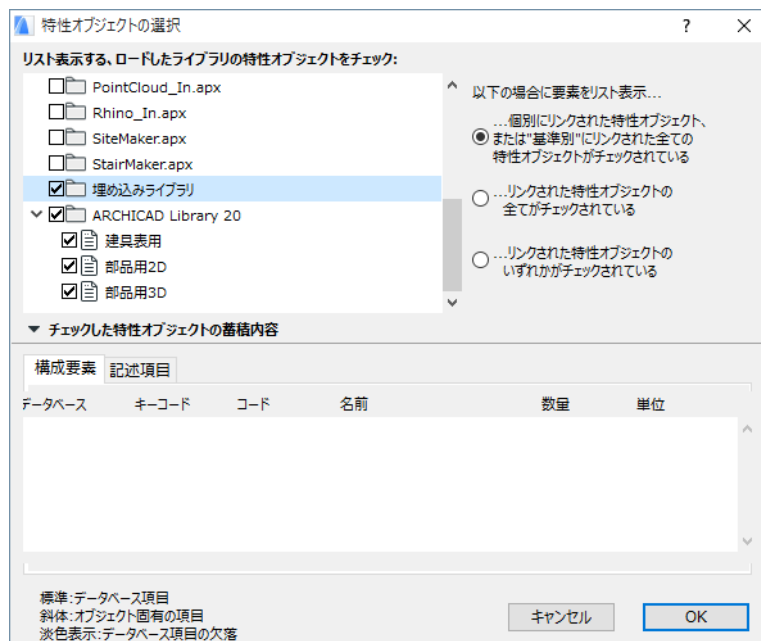
フロアスクロールリストでは、選択したフロアに配置されている要素を計算に含めることができます。チェックマークがオフになっているフロア上の要素は、計算されません。全てのフロアを選択するには、[全て] チェックボックスをオンにします。

特性オブジェクトによるフィルタ



リスト条件をさらに細かく設定するために特定の特性オブジェクトを選択するかどうかを指定するには、[リンクされた特性オブジェクト] ボックスを使用します。

- このフィルタを使用しない場合は、[全て] を選択します。
- 条件または要素自体の設定ダイアログボックスで特定の特性オブジェクトが割り当てられている要素を計算したい場合は、[選択した特性オブジェクトにリンクされた要素] をクリックします。
- 特性オブジェクトを選択する（例えば、鉄筋コンクリートのみで作られている組み立て要素をリストする）には、一覧の [特性オブジェクトの選択] をクリックして、対応するダイアログボックスを開きます。

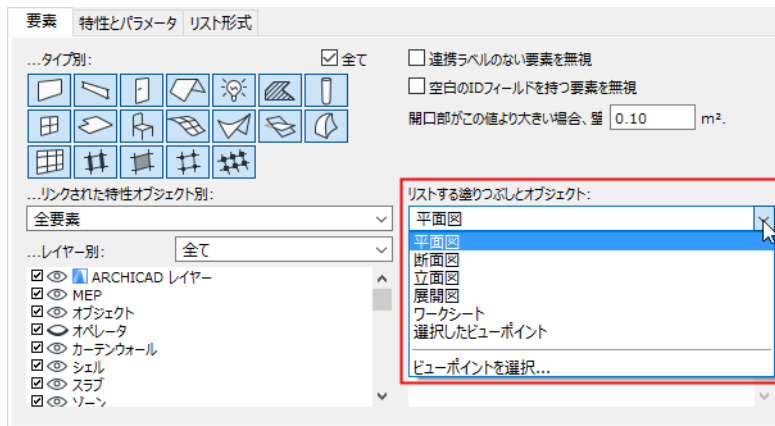


フォルダ名の横のチェックボックスには、オン、オフ、マイナスの3つの状態があります。チェックボックスをオンにすると、そのフォルダ内の全ての項目はプロジェクトのフィルタ時に使用されます。オフにすると、そのフォルダ内の全ての項目はプロジェクトのフィルタ時に無視されます。一部の項目のチェックマークがオンになっている場合は、マイナス (-) 記号が表示されます。

ダイアログボックス下部に、特性オブジェクトの構成要素と記述項目が表示されます。

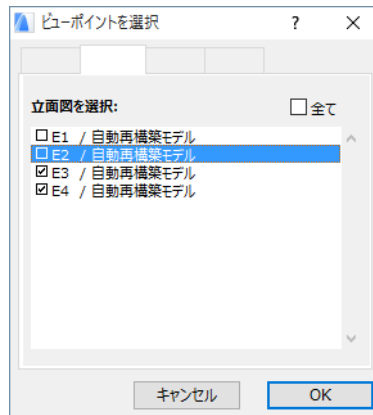
リストされた塗りつぶしおよびオブジェクトを視点別にフィルタ

[塗りつぶしおよびオブジェクトのリスト] ポップアップメニューにより、特定のプロジェクトビューポイントに含まれる塗りつぶしとオブジェクトをリストすることができます。



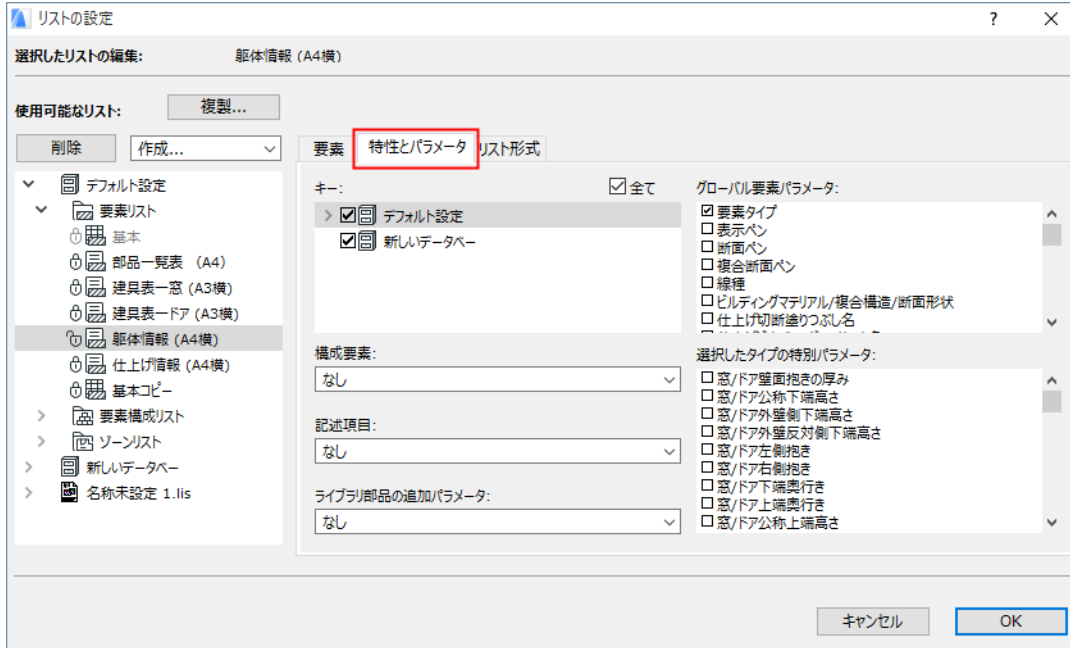
ビューポイントタイプを選択すると、このフィルタに該当するタイプの特定のビューポイント（例えば、特定の立面図など）を選択するためのサブダイアログが表示されます（選択したタイプの全てのビューポイントを含めるには、サブダイアログボックスの[全て]ボックスをチェックします）。

ビューポイントの複数のタイプを含めるには、[選択したビューポイント]オプションを選択し、サブダイアログを確認後、このフィルタに含める任意のタイプのビューポイントをチェックします。



[特性とパラメータ] タブページ

2番目のタブをクリックすると、[特性とパラメータ] ページが表示されます。このページのコントロールは、レポートで各要素に含める情報の量を決定します。



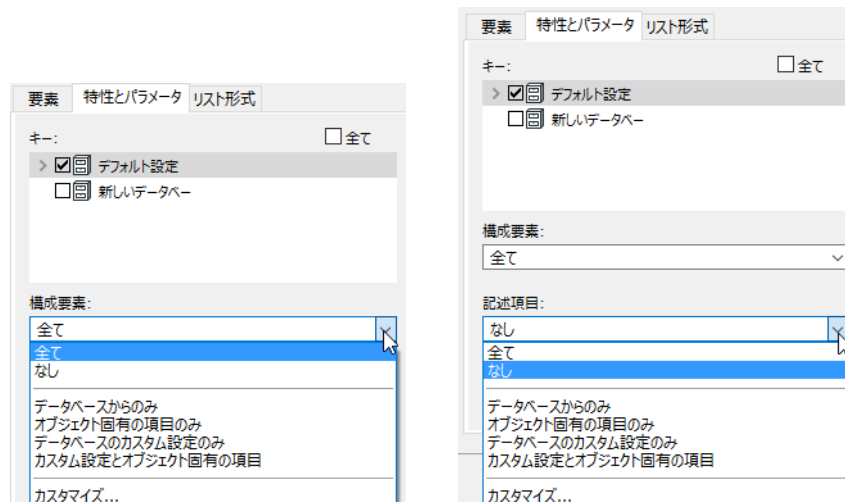
キーの選択

キーは、データベースにおける論理カテゴリで、タイプ別に基本データベース項目（構成要素および記述項目）をグループ分けします。

リストする構成要素と記述項目のフィルタリングに使用するキーを選択します。キーは、選択したリスト設定が属しているデータベースからしか選択できません。データベースに依存しない設定の場合は、既存のデータベースのどれからでもキーを選択できます。

構成要素および記述項目の選択

リストされる構成要素と記述項目の組み合わせを定義するには、[構成要素] と [記述項目] のリストボックスを使用します。



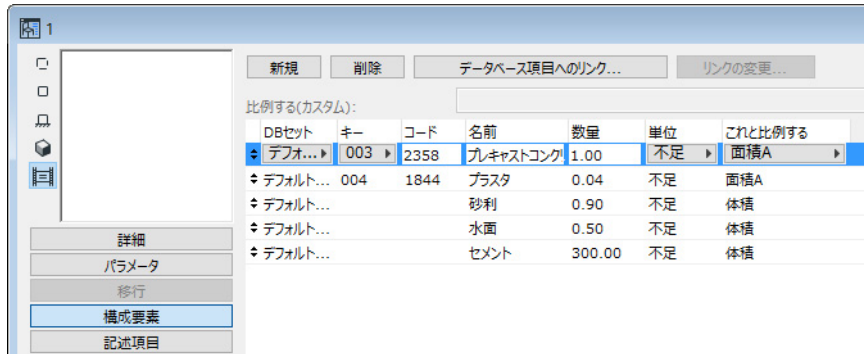
- ・ 計算に全ての関連構成要素（または記述項目）を含めるには、[全て]をクリックします。
- ・ 構成要素（または記述項目）を無視するには、[なし]をクリックします。

4つのグローバルオプションのうち1つを選択します。

- ・ [データベースからのみ]をクリックすると、データベース内の全ての特性（構成要素または記述項目）が含まれます。
- ・ [オブジェクト固有の項目のみ]をクリックすると、ローカルに定義された特性（正規のライブラリ部品のものまたは特性オブジェクトのもの）のみが含まれます。
- ・ [データベースのカスタム設定のみ]をクリックすると、[記述項目を選択]および[構成要素を選択]ダイアログボックスが開き、レポートをフィルタする特性セットを定義することができます。
- ・ [カスタム設定とオブジェクト固有の項目]は、2番目と3番目のオプションの組み合わせです。
- ・ 定義済みのオプションのどれとも一致しないフィルタセットを使用するには、[カスタマイズ]をクリックします。

例：

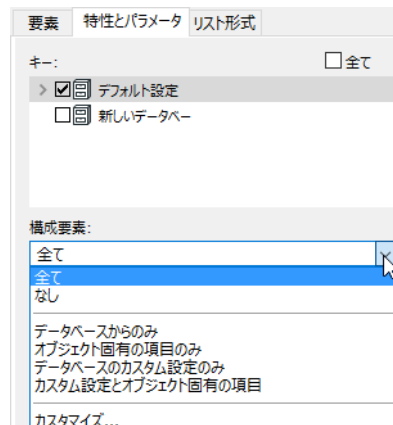
以下の構成要素が作成されている、特性オブジェクトが割り当てられた壁があるとします。



最初の2つは、一番上の行にある[データベース項目へのリンク...]ボタンをクリックし、それぞれに項目を選択することにより、データベースから取得します。

ほかの3つの構成要素は特性オブジェクトのローカル構成要素です。つまり、データベースの一部にはならないので、この特定の特性オブジェクトが割り当てられている要素とオブジェクトだけがアクセスできます。

[リストを設定]における構成要素のフィルタ方法によって、表示される要素リストが異なります。



- ・ [全て]：5つの構成要素全てがリストされます。
- ・ [なし]：何もリストされません。

- [データベースからのみ]: データベースにリンクされる最初の2つの構成要素のみリストされます。
- [オブジェクト固有の項目のみ]: この特性オブジェクトに固有の最後の3つの構成要素のみリストされます。

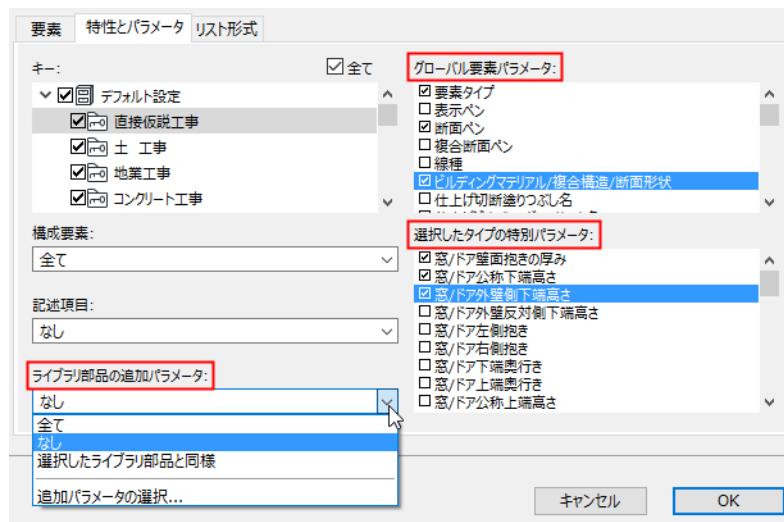
パラメータの選択

[グローバル要素パラメータ] リストでは、面積、体積、高さ、厚さまたはユーザー ID など全ての要素タイプに共通のパラメータを選択します。

複数選択を行うには、Shift キーを押しながらクリックします。

[その他のパラメータ] には、選択された要素タイプに固有のパラメータがリストされます。

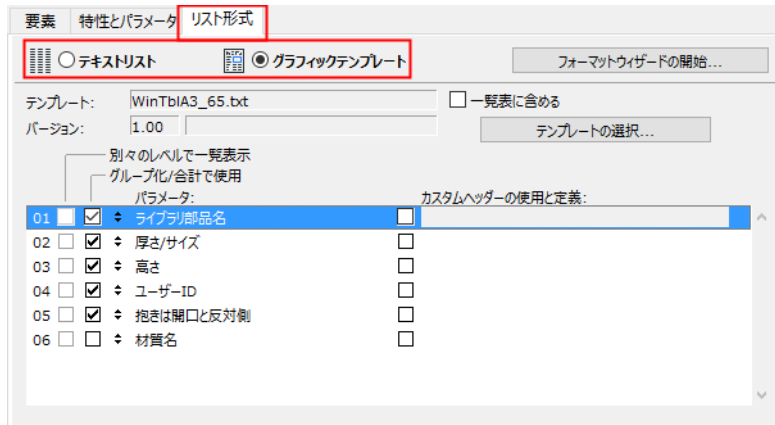
[ライブラリ部品の追加パラメータ] で [追加パラメータ] をクリックすると表示される [追加パラメータの選択] ダイアログボックスでは、タイプ別にまたは個別にパラメータを選択することができます。



[リスト形式] タブページ

3番目のタブをクリックすると、[リスト形式] ページが表示されます。このページのコントロールでは、レポートの全体的な外観を定義し、特性およびパラメータの論理順を設定することができます。

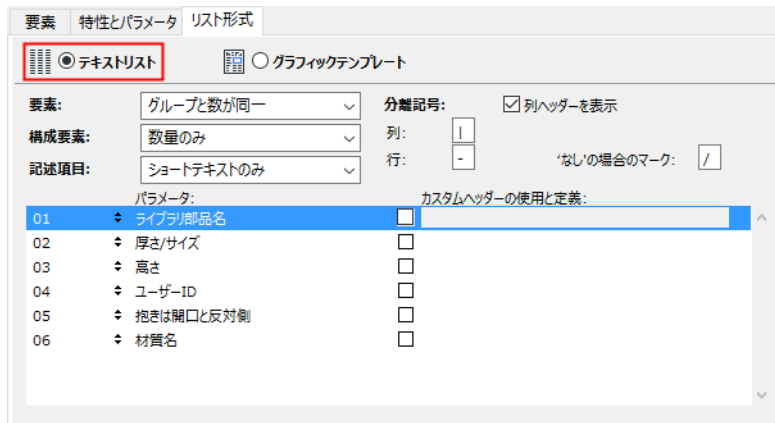
いずれかの形式を選択します。生データを表示するには [テキストリスト] を、定義済みのリスト形式テンプレートを選択するには [グラフィックテンプレート] をクリックします。



この2つのオプションボタンでは、次に説明する2つのコントロールウィンドウを切り替えることができます。

標準レポート

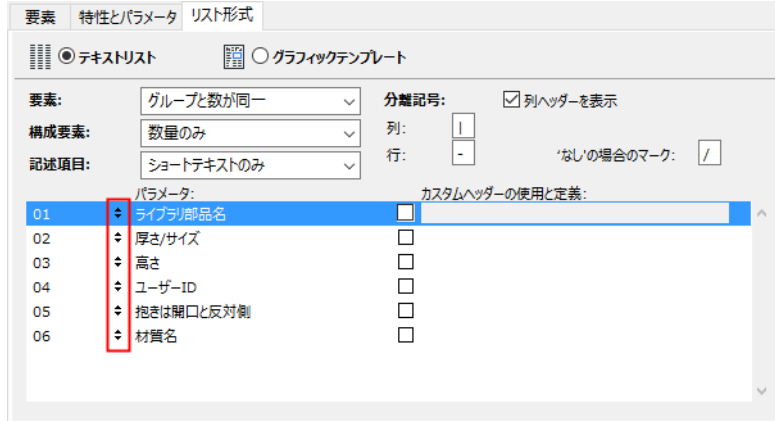
[リスト形式] タブページの [テキストリスト] ボタンをクリックすると、次のページが表示されます。



このレポート形式を選択すると、このページに表示されるレポートのレイアウトに関連するコントロールは限られます。ただし、レポートは編集可能なテキストウィンドウに表示され、このリストの設定でレポート内のデータを論理的に編成することができます。

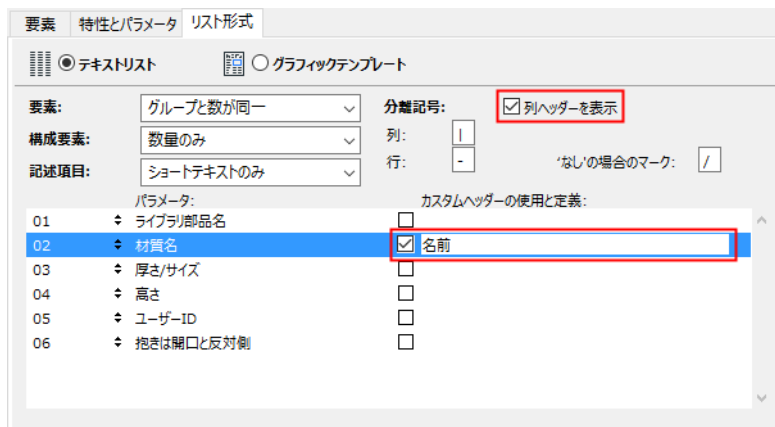
ソート順

デフォルトの順番を変更するには、パラメータをリスト内の新しい位置にドラッグします。



列ヘッダー

レポートで列ヘッダーが印刷されるようにするには、[列ヘッダーの表示] チェックボックスをオンにします。列ヘッダーには、パラメータ名とカスタムヘッダーのどちらかを表示できます。カスタムヘッダーを作成するには、カスタマイズするパラメータ名の隣のチェックボックスをオンにして、テキストフィールドに希望するヘッダーを入力します。



リストの環境設定

このタブページ上部の3つのリストボックスを使用して、リスト方法を定義します。

[要素] ボックスの一覧の [行ごとの項目] をクリックすると項目別のリストが作成されます。同じ要素の場合でも項目別となります。[グループと数が同一] をクリックすると、パラメータだけでなく、同じ項目もグループ化されて合計されます。この2つの違いについては、次のレポートを参照してください。



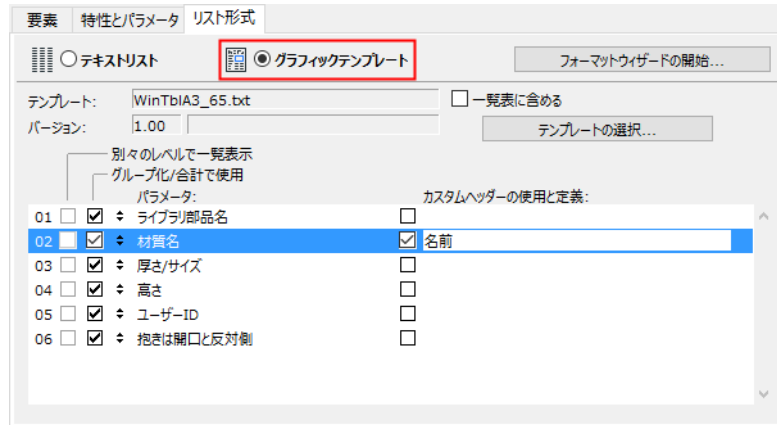
[構成要素] ボックスの一覧では、[構成要素を展開する] をクリックすると、構成要素のパラメータがリストされます。[数量のみ] をクリックすると、単位は表示されず数量のみが表示されます。

[記述項目]では、[記述項目を展開する]をクリックすると記述項目の全てのパラメータ、キー、およびコードがリストされます。[ショートテキストのみ]をクリックすると、レポートには記述項目の最初の行のみが表示されます。

注記：テキストリストは、標準テキスト、タブ区切りテキスト、またはHTML形式で保存することができます。テキストリストには、記述項目のショートテキストだけがリストされます。

グラフィックテンプレート

[リスト形式] タブページ上部の [グラフィックテンプレート] ラジオボタンをクリックすると、このページが表示されます。



[グラフィックテンプレート] では、自分のライブラリから定義済みのリストテンプレートを選択するか、組み込まれているテンプレートレイアウト (またはそのコピー) を使用することができます。

リストレイアウトテンプレートは、テキスト要素とグラフィック要素の両方を取り込む、高度ですぐにプレゼンテーションできるようなレポート形式を提供します。

テンプレートを使用した形式のレポートは、編集不能なプロジェクトウィンドウに表示されます。プロジェクトウィンドウの内容は、平面図ビューを含むほかのプロジェクトウィンドウにコピーすることも、ARCHICAD プロジェクト、RTF、および PlotMaker のレイアウト形式で保存することもできます。

ライブラリでリストテンプレートを検索するには、[テンプレートの選択] をクリックします。[開く] ダイアログボックスでテンプレートファイルを選択します。デフォルトテンプレートは、ARCHICAD ライブラリの [リストテンプレート] フォルダにあります。

独立したテンプレートを使用すると、ARCHICAD は設定に関して、実際のテンプレートファイルを参照します。[一覧表に含める] チェックボックスをオンにすると、テンプレートファイルは listset.txt ファイル ([上記参照](#)) 内でアーカイブされます。このチェックボックスをオンにすると、テンプレート名は斜体で表示されます。

データの順番およびパラメータのオプション

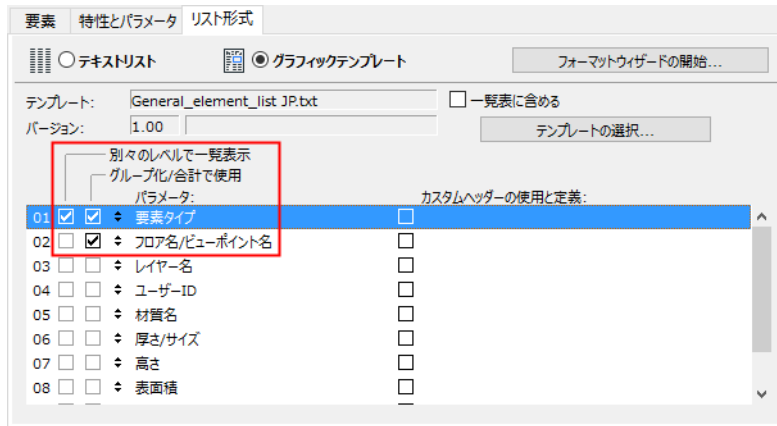
データ列の順番を変える方法および列ヘッダーをカスタマイズする方法については、この前の「テキストリスト」部分を参照してください。

パラメータのリストが構成要素または記述項目を含む場合、このチェックボックスを使用して追加のリスト項目を定義します。

注記：データの順番を変更すると、テンプレートに固定の列ヘッダーが含まれている場合には、リストの内容が矛盾してしまう場合があります。

パラメータのリスト

要素リストのテンプレートファイルには、レポートで要素のパラメータを別々にリストする命令やパラメータの値を合計する命令、またはこの両方を行う命令を含めることができます。対応するチェックボックスを使用して、各パラメータに環境設定を定義します。



- [別々のレベルで一覧表示]: 各要素のパラメータのタイプをリストします。
- [グループ化/全体で使用]: レポートでパラメータ値を合算します。

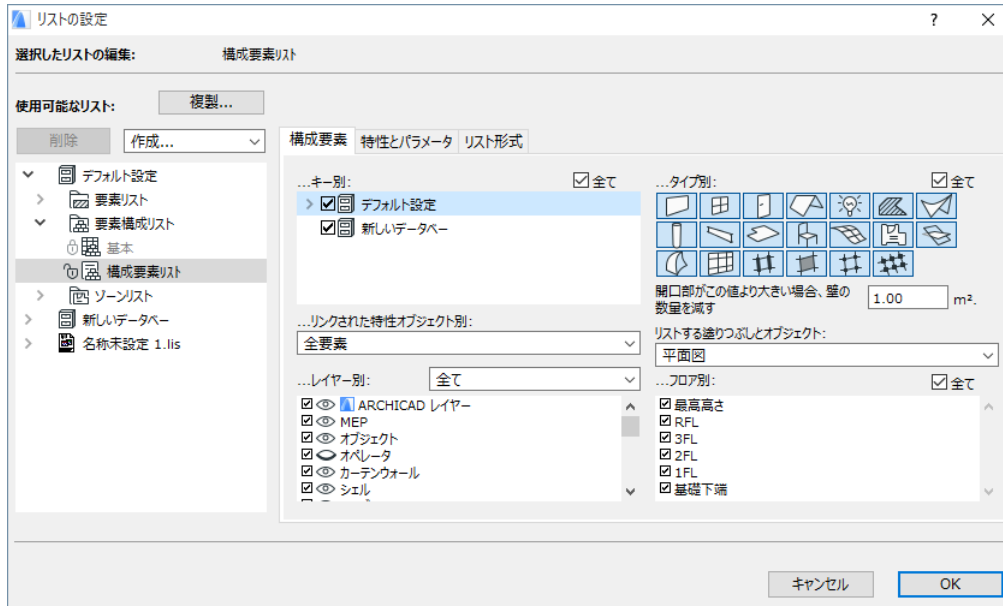
構成要素リスト

構成要素リストタイプの設定を選択すると、[リストを設定] ダイアログボックスには、このリストタイプで利用できるコントロールが表示されます。

多くのコントロールは、要素リストの場合と同じです。[前述の関連する部分を参照してください。](#)

[構成要素] タブページ

タブページ上部の [キー] リストで、リストされる構成要素や記述項目をフィルタするキーを選択するか、[全て] チェックボックスをオンにして全ての構成要素と記述項目を有効にします。



[特性とパラメータ] タブページ

[マスター特性制御] および [要素パラメータ] チェックリストの動作は、要素リストの動作と同じです (前述の関連する部分を参照してください)。

[オプションの構成要素データ] 領域のボタンは、構成要素のリストする部分を決定します (名前と数量は常に表示されます)。

- [断片] ボタンは、キーコード文字列のドットで区切られた 4 つの断片を表します。004.003.002.001 というキーコードの場合、[断片 3] は、キーコードの 3 番目の断片である文字列「002」を返します。

ゾーンリスト

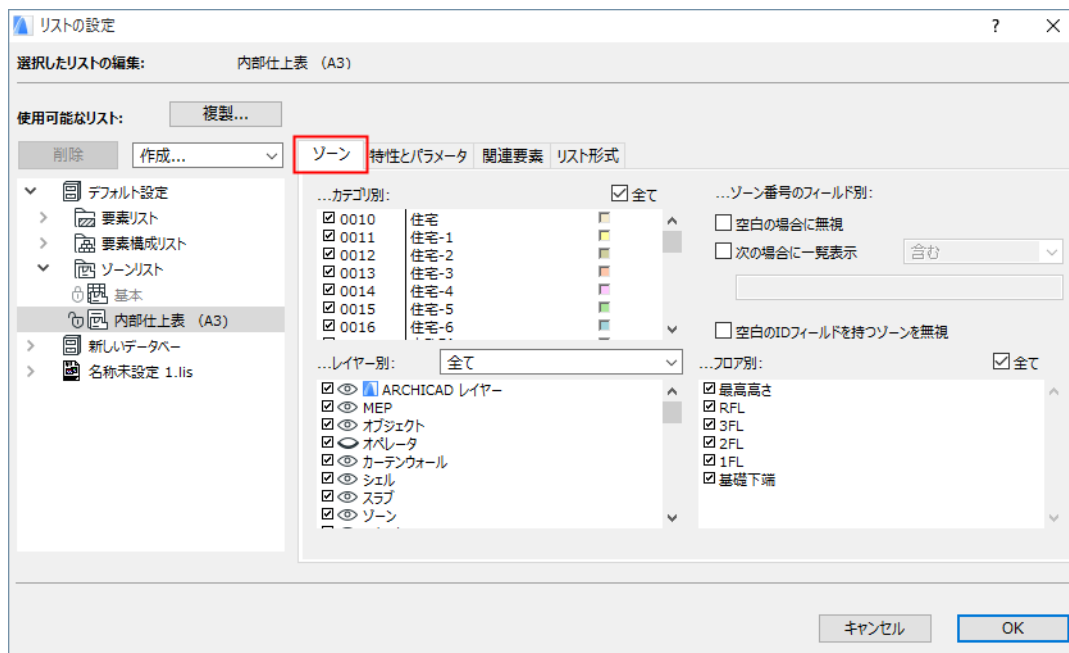
ゾーンリストでは、それに応じて [リストの設定] ダイアログボックスが変更されます。

多くのコントロールは、要素リストの場合と同じです。

[前述の関連する部分を参照してください。](#)

[ゾーン] タブページ

[リストを設定] ダイアログボックスの上の最初のタブをクリックすると、[ゾーン] タブページが表示されます。



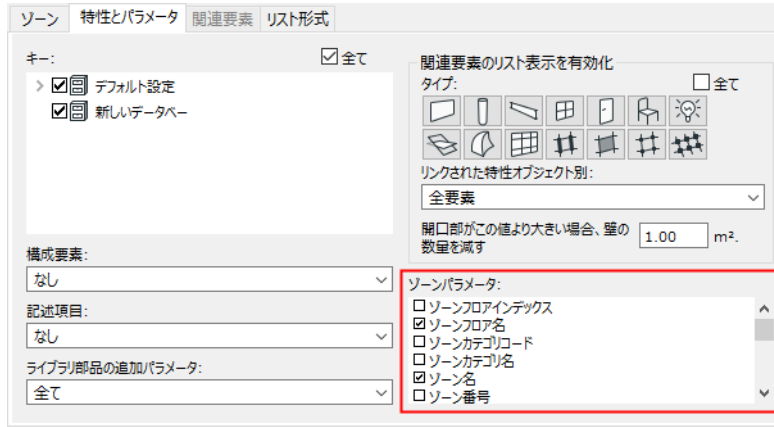
ゾーンカテゴリでリストをフィルタする個別のチェックボックスをオンにするか、または全てをオンにして全てのカテゴリを使用します。

タブページの右上の [ゾーン番号フィールド] 領域のチェックボックスおよびオプションを使用して、さらにゾーンをフィルタすることもできます。

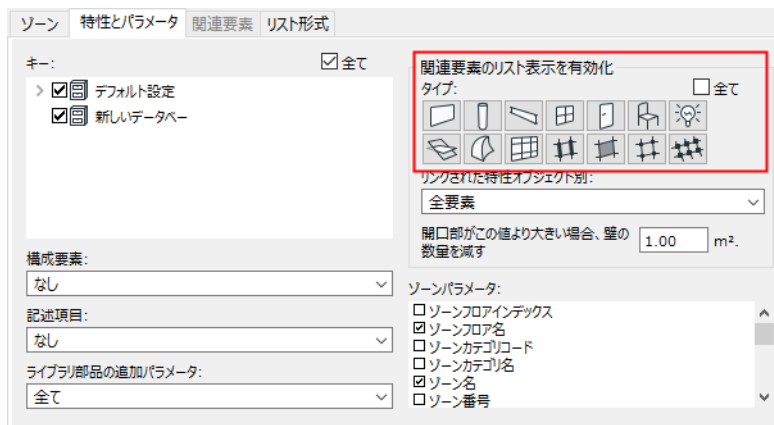
- [空白の場合に無視]：番号のないゾーンを省略します。
- [空白の ID フィールドを持つゾーンを無視]：ID 番号のないゾーンを省略します。

[特性とパラメータ] タブページ

チェックボックスを使用して、ゾーンパラメータでリストをフィルタします。
複数選択を行うには、Shift キーを押しながらかlickします。



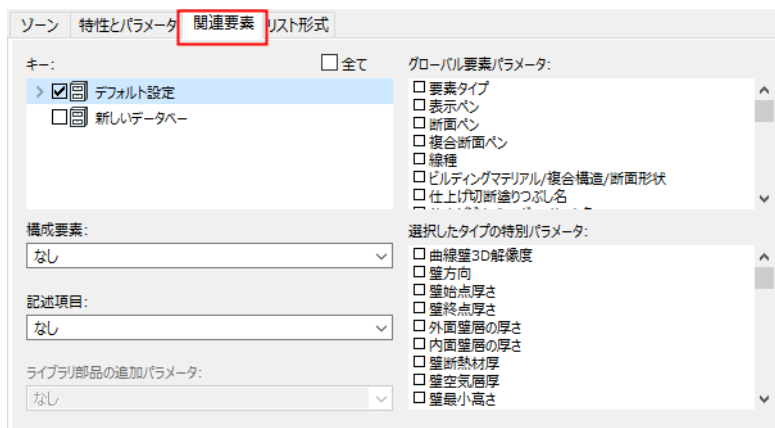
[関連要素のリスト表示を有効化] ボタンでは、リストされたゾーン内のどの要素タイプを含めるかを定義します。これらのいずれかを選択すると、[関連要素] タブページが有効になります（下記参照）。



[壁減算の量] フィールドおよび [リンクされた特性オブジェクト] ボックスの動作は、要素リストの動作と同じです（[上記参照](#)）。

[関連要素] タブページ

ゾーンリストでのみ使用可能なこのタブページは、[特性とパラメータ] タブページでいずれかの関連要素が前もって選択されていると有効になります（上記参照）。



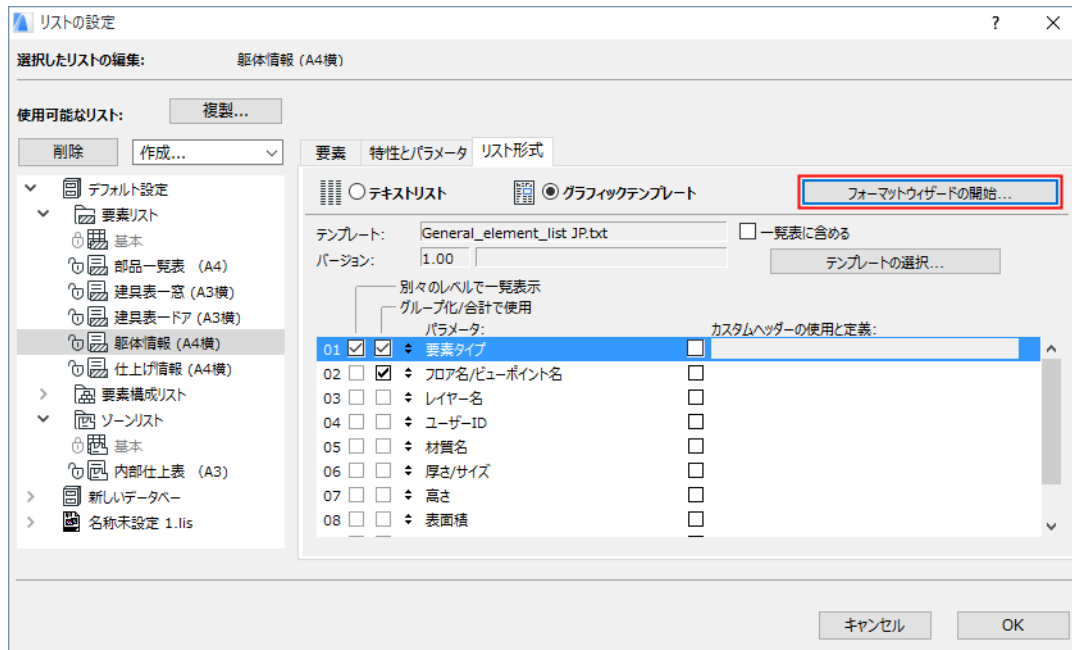
ゾーンリストは、ゾーンの形状に制限されません。ゾーンに含まれる組み立て要素、特に周囲の壁、柱、移動型壁、ドア、窓、およびその他のゾーン空間内のオブジェクトも含まれます。

[関連要素] ページのコントロールでは、1つまたは複数のゾーンにリンクされている要素がゾーンレポートで計算される際の設定をカスタマイズすることができます。計算に含まれる要素タイプは、[特性とパラメータ] タブページで選択します。

[関連要素] タブページのフィルタは、要素タイプリストの [特性とパラメータ] タブページのものと同じです。

[フォーマットウィザード]/[フォーマットアシスタント]の使い方

[リストを設定]ダイアログボックスで[リスト形式]タブをクリックし、[グラフィックテンプレート]が選択されていることを確認します。左側のツリー構造でリスト設定を選択してから、[フォーマットウィザードの開始] (Windows) または[フォーマットアシスタントの開始] (Mac) をクリックします。これにより、テンプレートの名称変更、削除、複製およびカスタマイズが可能な複合ダイアログボックスが開きます。



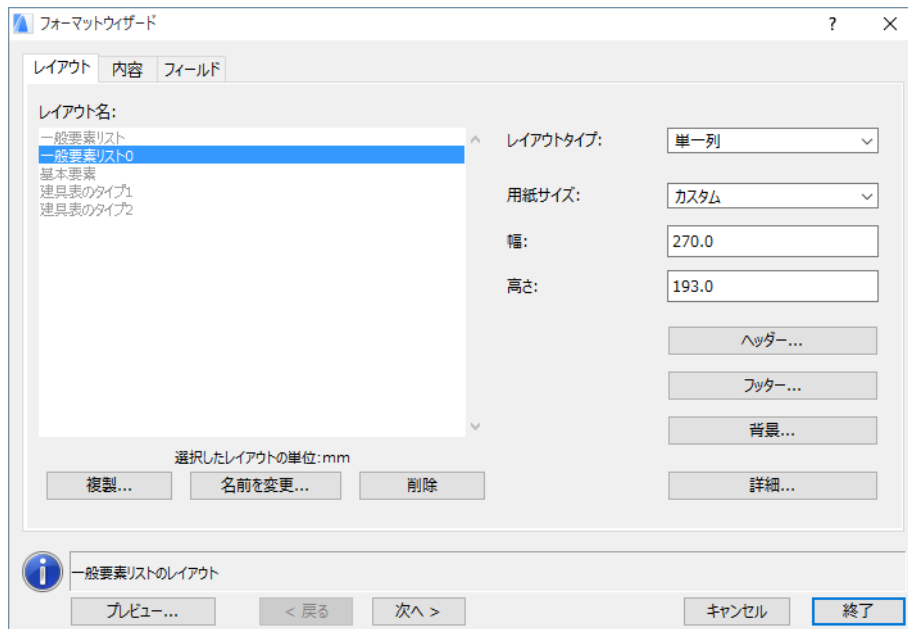
注記：ウィザード / アシスタントは、外部のテンプレートファイルでは機能しません。プログラム自体、ARCHICAD プロジェクト (.pln, .pla) ファイル、または環境設定ファイルに、バイナリ形式で格納されて組み込まれたレイアウトセクションでのみ機能します。

ウィザードを終了して[リストを設定]ダイアログボックスに戻ると、その前に作成したレイアウトの名前が[テンプレート]ボックスに表示され、[一覧表に含める]チェックボックスがオンになります。これは、このレイアウトへの参照はライブラリ内のリスト設定ファイルに格納されますが、レイアウト自体はプロジェクト (.pln, .pla) または環境設定ファイルに保存されることを意味します。このチェックボックスをオフにすると、レイアウトをライブラリ内の外部テンプレートテキストファイルに保存することができます。ただし、このようにすると、これ以降ウィザード内からこのレイアウトを利用できなくなります。

注記：[新規作成とリセット]は、全てのカスタムレイアウトを削除して、出荷時のデフォルトレイアウトだけを利用できるようにします。

「[テンプレート](#)」を参照してください。

フォーマットウィザード：[レイアウト]タブページ



[フォーマットウィザード]/[フォーマットアシスタント]ダイアログボックスが表示されるとき、デフォルトでは[レイアウト]タブページが選択されています。

このタブページの左側にある[レイアウト名]リストから編集を行うには、グラフィックテンプレートを選択します。

- このリストでは、出荷時のデフォルトテンプレートとロックされているテンプレートはグレーで表示されます。デフォルトテンプレートは、ARCHICAD リソースコードにリンクされていて、編集できません。[フォーマットウィザード]/[フォーマットアシスタント]ダイアログボックスで詳細を見ることができません。
- 編集可能なレイアウトは黒で表示され、個別にカスタマイズすることができます。

既存のレイアウトは、デフォルトのものもロックされているものも、全て複製を作ることができます。作成したコピーは、自由に編集できます。

選択したレイアウトの複製、名前の変更、削除は、[レイアウト]タブページの左下の[レイアウト名]ボックスの下の対応するボタンで行います。

注記：ロックされているリスト設定のテンプレートを編集するには、まず[リストを設定]ダイアログボックスでロックを解除します。

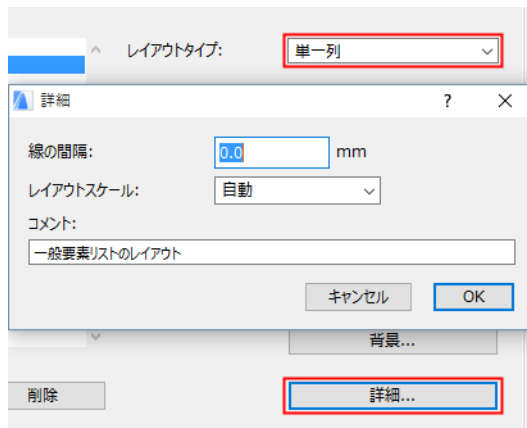
レイアウトタイプ

[レイアウトタイプ]リストページから、選択したグラフィックテンプレートのレイアウトタイプを決定します。

- ページを垂直方向に並べ替えるには、[単一列]を選択します。
- ページをグリッドシステム内で編成するには、[タイル]を選択します。

レイアウトの詳細

[詳細]をクリックすると、各設定に対していずれかのオプション（[単一列]または[タイル]）を指定できます。



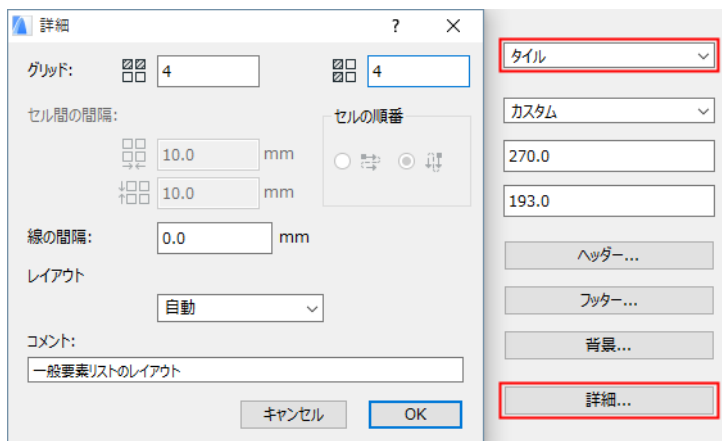
[単一列]リストでは、次の操作が可能です。

- 2つ並んだリスト項目の行の間隔を定義
- リストを ARCHICAD ビューに貼り付けるときに使用するレイアウトスケールを選択
注記：[自動]オプションの場合は、平面図での現在のスケールが使用されます。

[コメント]ボックスには好きな内容を入力することができます。このコメントは、[フォーマットウィザード]/[フォーマットアシスタント]ダイアログボックスの情報領域に表示されます。

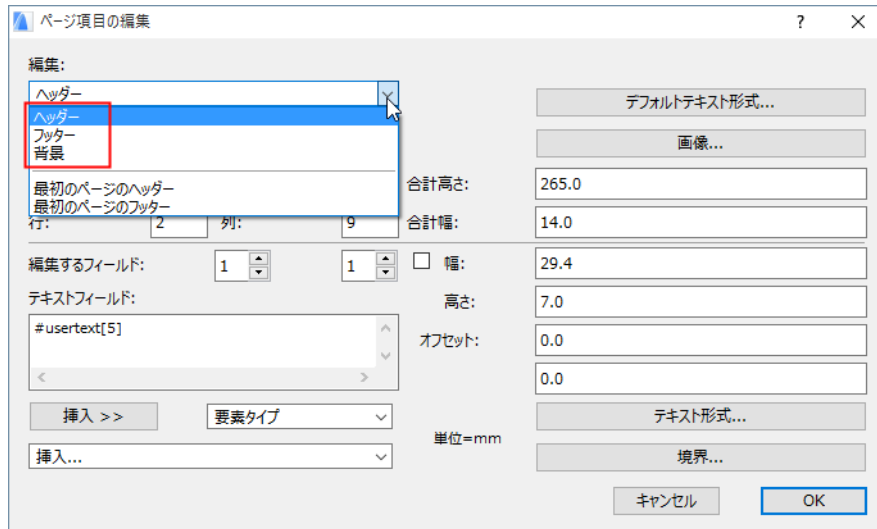
[タイル]リストでは、次の操作が可能です。

- [グリッド]フィールドを使用して縦横セルの数を指定してから、両方向に対してセル間隔を指定
- [セルの順番]ボタンを使用して、セルが後に続く方向を編成



ページ項目の編集

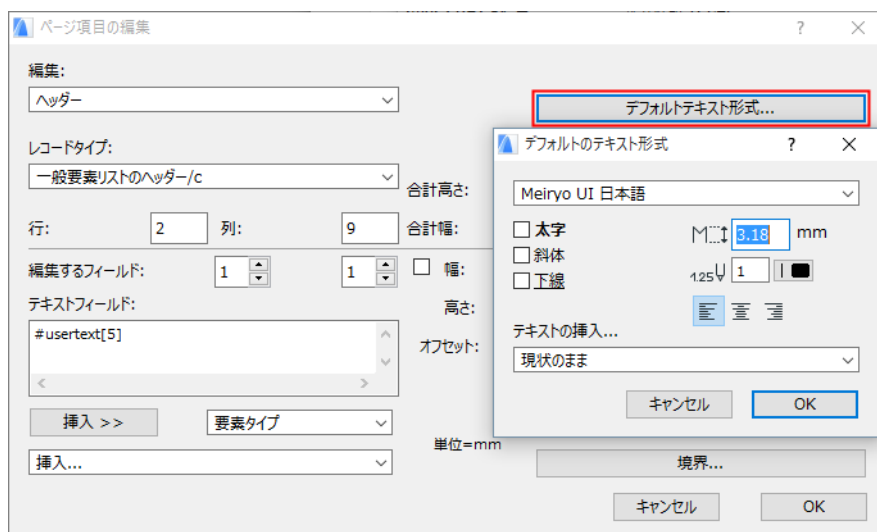
[ヘッダー]、[フッター]または[背景]をクリックすると、それらの設定の編集が可能な[ページ項目の編集]ダイアログボックスが表示されます。各ページにヘッダーまたはフッター、またはこの両方を配置したり、最初のページだけに配置したりすることができます。最初のページのヘッダーやフッターは、その他のページとは別にすることができます。



ダイアログボックスの左上の[編集]ボックスの一覧から、修正するページ項目を選択します。定義済みの形式は、[レコードタイプ]ボックスの一覧から選択することができます。

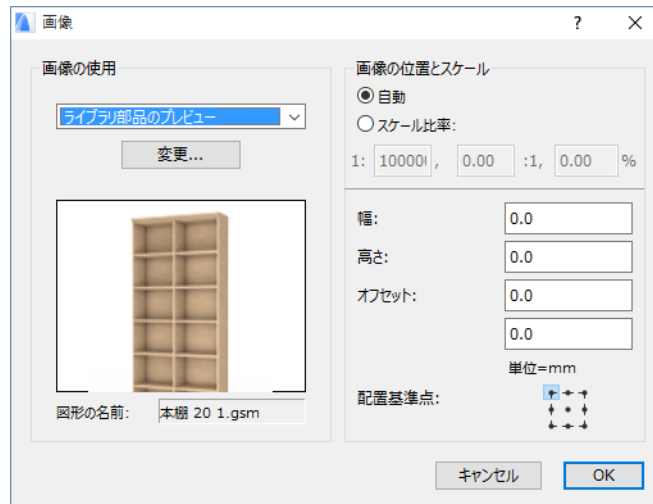
ページ項目のサイズは、[合計幅]と[合計高さ]のボックスに値を入力して定義します。[行]と[列]のボックスを使用して、選択したページ項目をフィールド内に編成します。

[デフォルトのテキスト形式]ダイアログボックスで、選択したページ項目のデフォルトのテキストタイプを編集します。テキストがセルに合わない場合にテキストをクロップする方法を定義するには、[テキストの挿入]ボックスの一覧を使用します。



編集したページ項目のレイアウトにビットマップ画像をインポートするには、[画像]をクリックします。インポートできるビットマップは、現在のライブラリ、特性オブジェクトによって生成された ARCHICAD オ

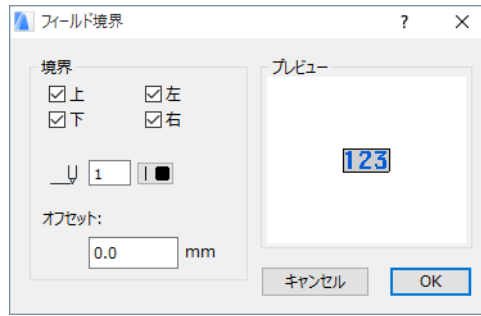
プロジェクトシンボル図面、または現在のライブラリ内の ARCHICAD ライブラリ部品のプレビューピクチャのいずれかからの外部画像ファイルです。



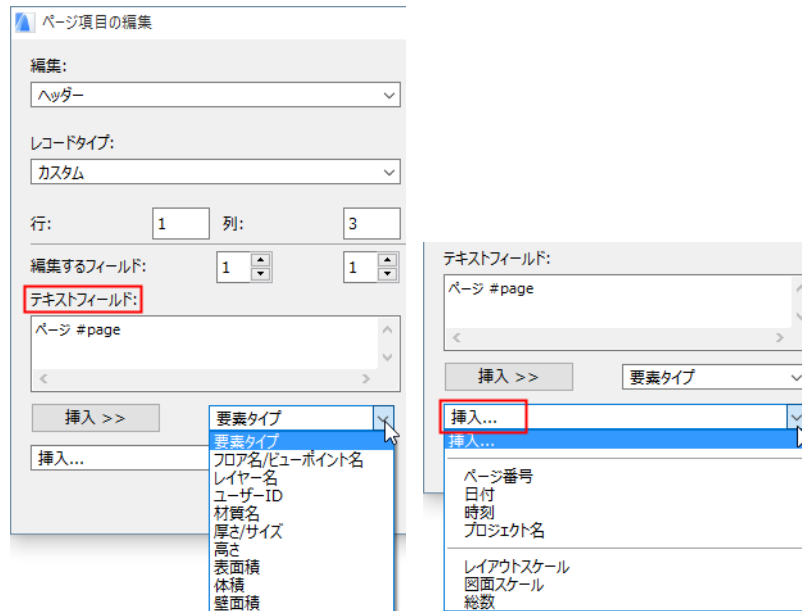
[ページ項目の編集] ダイアログボックスを使用して、項目 (例、ヘッダーやフッター) を定義し、コントロールできます。



- 修正するフィールドを定義するには、[編集するフィールド] ボックス (カウンタ) を使用します。最初のボックスは列のカウンタで、2 番目は行のカウンタです。
- [幅]、[高さ] および [オフセット] フィールドを使用して、選択したフィールドのサイズと位置を定義します。
- フィールドにデフォルト以外のテキストタイプを設定するには、[テキスト形式] をクリックします。
- [境界] ボタンをクリックして、フィールド境界を設定します。

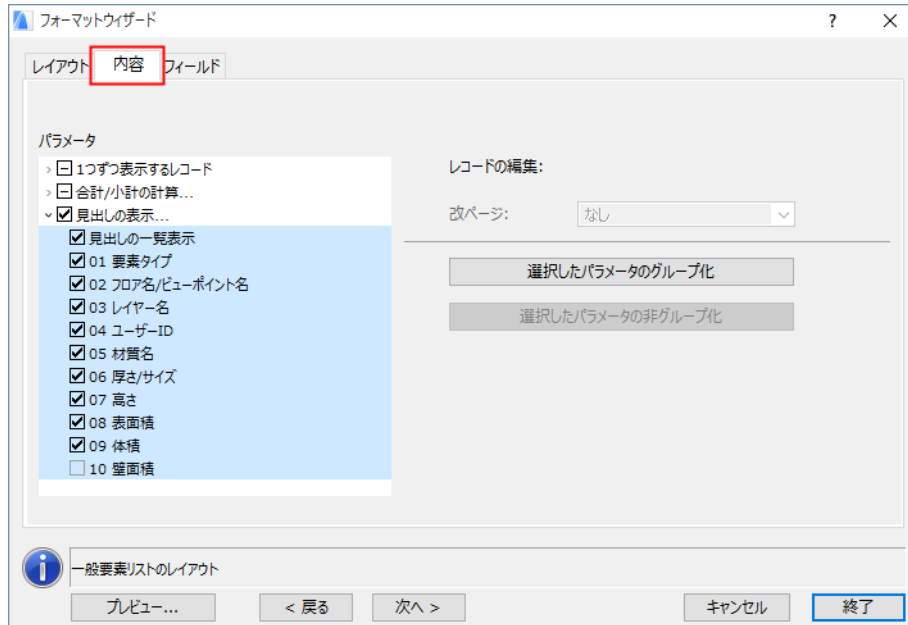


テキストフィールドの内容の定義：ボックスで項目を選択して、[挿入 >>] をクリックします。下の [挿入] ボックスをクリックして、グローバルに定義されたデータを追加します。



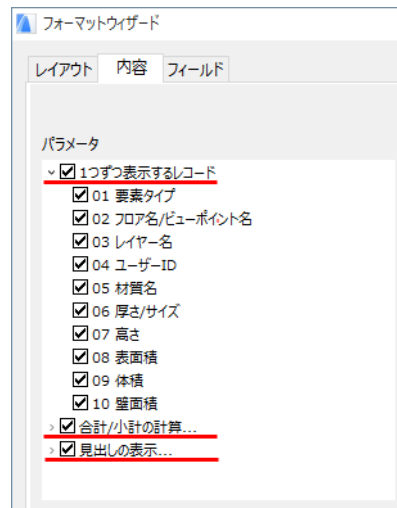
フォーマットウィザード：[内容]タブページ

[フォーマットアシスタント]/[フォーマットウィザード]の[内容]タブページで、リスト内でのパラメータの表示方法を指定します。



ここでのパラメータリストは、[リストを設定]ダイアログボックスの[特性とパラメータ]タブページのパラメータリストと同じです。

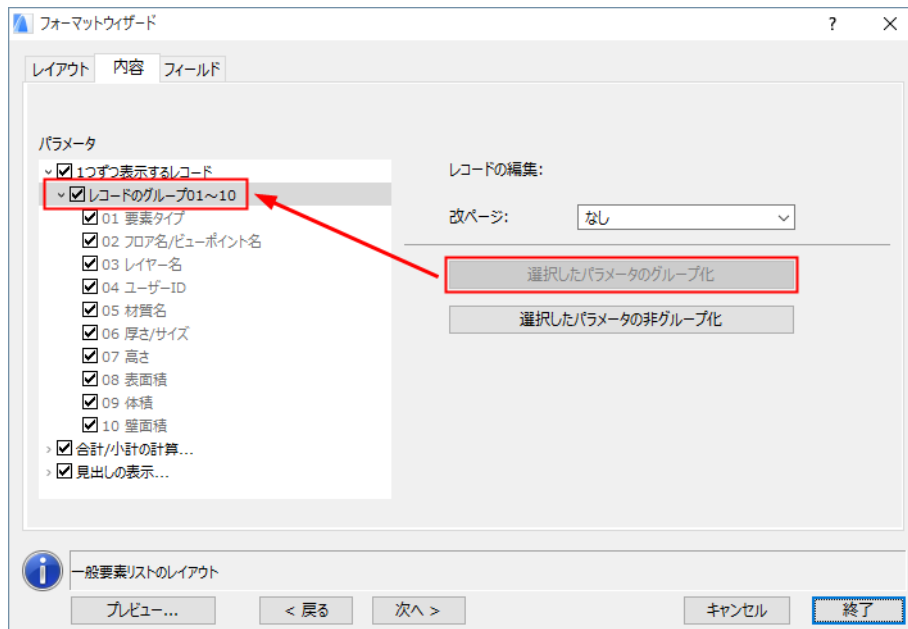
レコードの生成に使用するパラメータを選択します。パラメータは、次の3つのレコードタイプに従ってリストされます。



- 1つずつ表示するレコード
- 合計 / 小計の計算 ...
- 見出しの表示 ...

選択するにはパラメータの横のチェックボックスをクリックします。

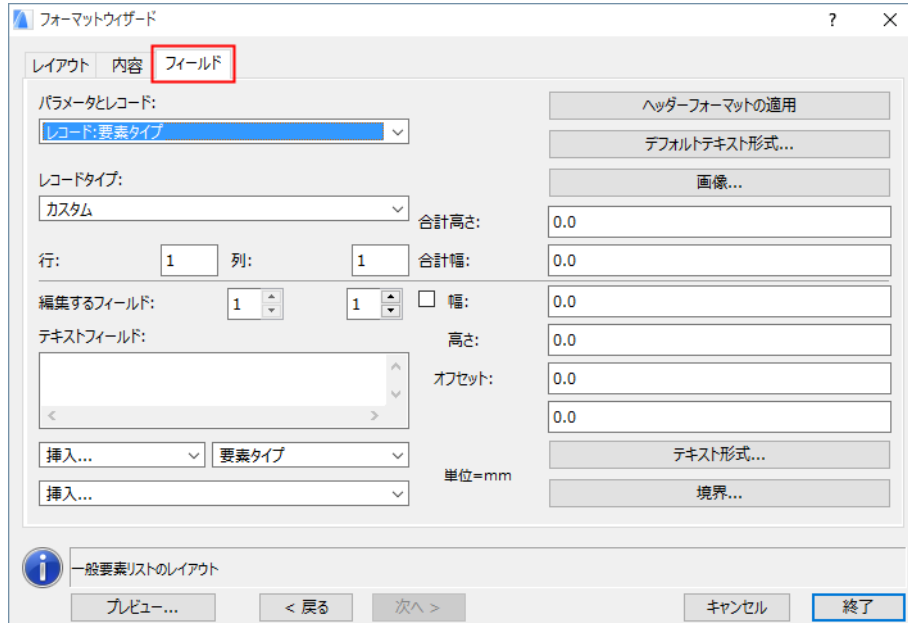
チェックボックスをオンにして選択したパラメータを、[パラメータ]ボックスの右側の[選択したパラメータのグループ化]をクリックしてグループ化します。



その結果は、[テキストリスト]で[グループと数]機能を実行した場合と同じです。
ページ上でレコードを適切に編成するには、[改ページ]ボックスの一覧からオプションを選択します。

フォーマットウィザード：[フィールド] タブページ

[フィールド] タブページは、前述の [ページ項目の編集] ダイアログボックスと非常によく似ています。
「[ページ項目の編集](#)」を参照してください。



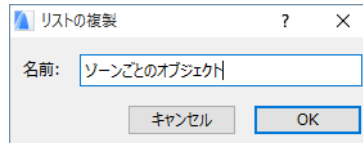
[内容] タブページで選択したパラメータは、[パラメータとレコード] ボックスに表示されます。全てのパラメータに定義済みのレコードタイプを選択することも、既存のものを編集することもできます。定義済みのタイプは、[レコードタイプ] ボックスの一覧から選択することができます。定義済みのレコードタイプを編集しているときは、このボックスには [カスタム] と表示されます。
「[例一覧](#)」も参照してください。

例一覧

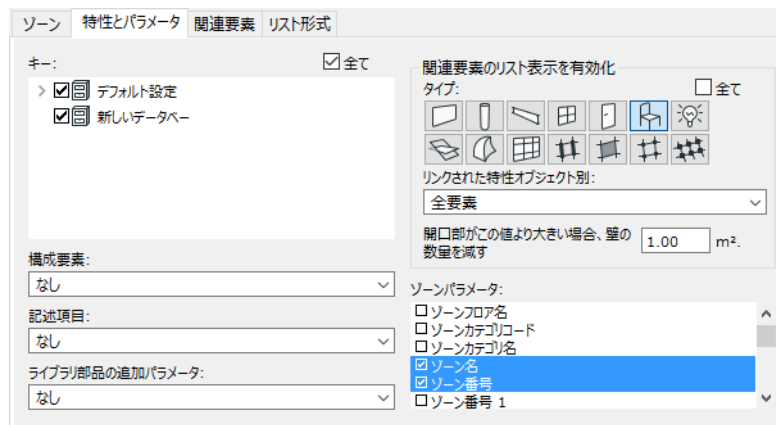
A：計算例

例 1：全ての含まれているオブジェクトタイプが集約されたゾーン（ゾーン別小計）

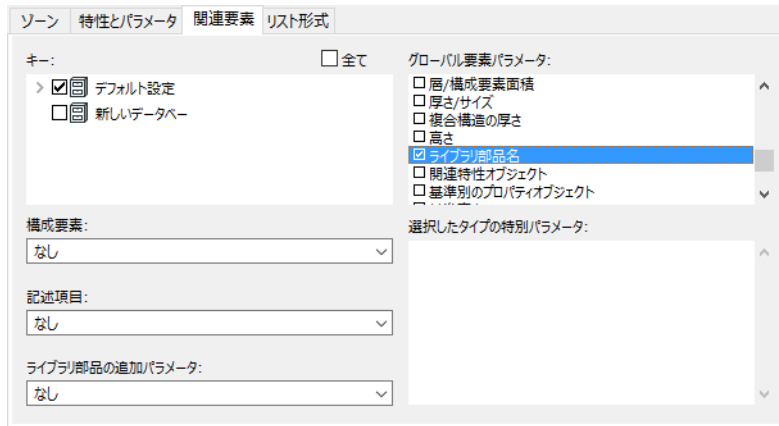
1. [リストの設定] ダイアログボックスを開きます。
2. ゾーンリスト設定の1つを複製し、名前を付けます（例えば、「ゾーン内のオブジェクト」）。



3. 最初のタブページ ([ゾーン]) で、フィルタを適切に設定します。全てのゾーンをリストするには、全てのフロア、全てのゾーンカテゴリなどのチェックボックスをオンにします。
4. 2番目のタブページ ([特性とパラメータ]) では、次のようにします。
 - [構成要素]、[記述項目]、および [ライブラリ部品の追加パラメータ] の各ボックスの一覧の [なし] をクリックします。
 - [関連要素の一覧表示を有効化] 領域でオブジェクトを有効にします（椅子のアイコンをクリックします）。
 - [リンクされた特性オブジェクト] ボックスで [全要素] を設定します。
 - [ゾーンパラメータ] ボックスの [ゾーン名] と [ゾーン番号] のチェックボックスをオンにします。

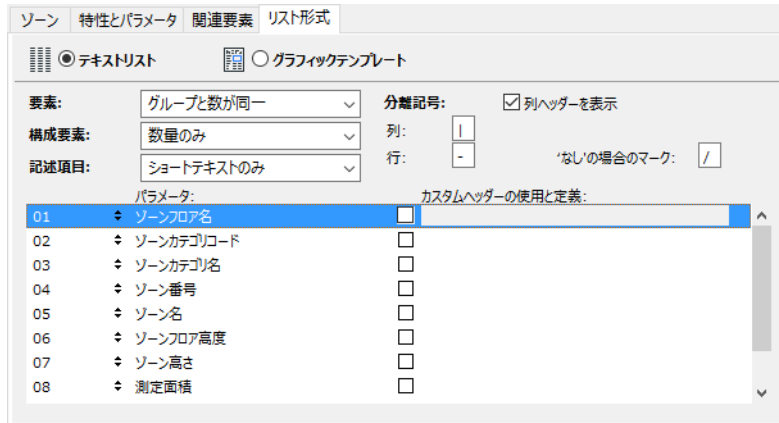


5. 3番目のタブページ ([関連要素]) では、次のようにします。
 - [構成要素]、[記述項目]、および [ライブラリ部品の追加パラメータ] の各ボックスの一覧の [なし] をクリックします。
 - [グローバル要素パラメータ] ボックスの一覧の [ライブラリ部品名] チェックボックスをオンにします。



6. 4番目のタブページ ([リスト形式]) では、次のようにします。

- テキストリストを選択；
- [要素]ボックスの一覧の[グループと数が同一]をクリックします。ダイアログボックスの一番下に、次のパラメータリストが表示されることを確認します。



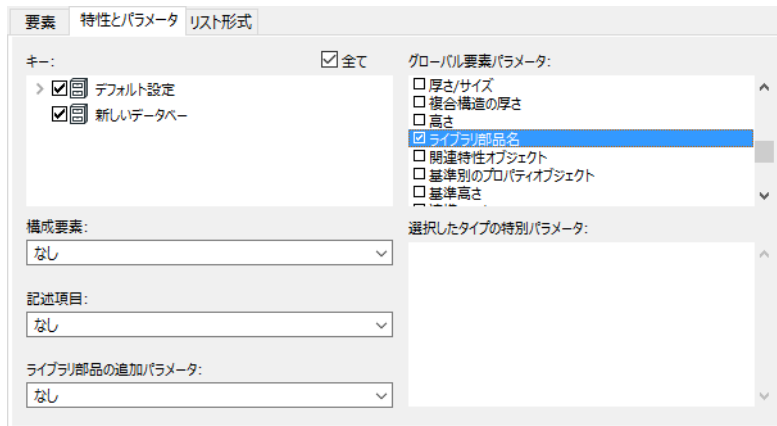
7. [OK] をクリックし、[ゾーンリスト]のゾーン一覧に保存したオブジェクトを選択します。リストは、次のようになります。

[1. 1FL]		[ゾーン / ゾーンごとのオブジェクト]						
ゾーンフロア名	ゾーンカテゴリコード	ゾーンカテゴリ名	ゾーン番号	ゾーン名	ゾーンフロア高度	ゾーン高さ	測定面積	ライブラリ部品名
1 1FL	0010	住宅	01	リビングルーム		0.00	3.00	18.50
1 /	/	/	/	/	/	/	/	/
1 1FL	0010	住宅	02	ベッドルーム		0.00	3.00	18.50
1 1FL	0010	住宅	03	キッチン		0.00	3.00	17.10
1 1FL	0010	住宅	04	浴		0.00	3.00	17.10
1 1FL	0010	住宅	05	ホール		0.00	3.00	16.42
1 1FL	0010	住宅	06	トイレ		0.00	3.00	12.42
								100.03

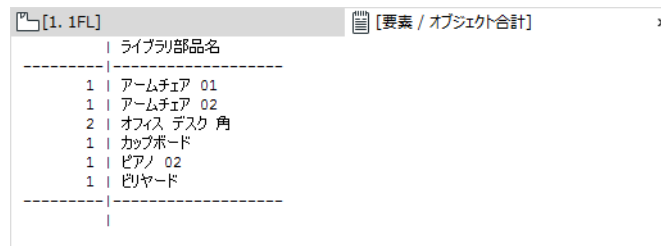
例 2：プロジェクト全体のオブジェクトタイプの総計

1. [リストの設定]を開きます。
2. 要素リスト設定の1つを複製し、名前を付けます (例えば、「オブジェクト合計」)。
3. 最初のタブページ ([要素]) でフィルタを適切に設定します。つまり、[タイプ別]領域でオブジェクト (椅子アイコン) をクリックし、全てのフロアなどのチェックボックスをオンにします。
4. 2番目のタブページ ([特性とパラメータ]) では、次のようにします。
 - [構成要素]、[記述項目]、および [ライブラリ部品の追加パラメータ] の各ボックスの一覧の [なし] をクリックします。

- [グローバル要素パラメータ] ボックスの一覧の [ライブラリ部品名] チェックボックスをオンにします。



5. 3番目のタブページ ([リスト形式]) では、次のようにします。
 - テキストリストを選択;
 - [要素] ボックスの一覧の [グループと数が同一] をクリックします。
6. [OK] をクリックし、[要素リスト] 内のオブジェクトの総計リスト一覧を選択します。リストは、次のように、オブジェクトタイプごとの総計を表示するようになります。



例 3：全ての含まれているオブジェクトタイプが集約され（ゾーン別小計）、オブジェクトタイプごとに合計（総計）されたゾーン

この例は、この前の2つのリスト設定の結果を1つのリスト内に生成する完全なリスト環境を説明するものです。

ステップ 1：「オブジェクトカウンタ」特性オブジェクトを作成します。

1. [特性を新規作成] コマンドを使用して、空白のライブラリ部品ウィンドウを開きます。
2. [特性] をクリックして特性スクリプトウィンドウを開きます。
3. 次の2行を特性スクリプトにコピーします。

```
dummy = REQUEST ("Name_of_Listed", "", name)
```

```
COMPONENT name, 1, "", 1, name
```

詳細については、ARCHICAD ヘルプの『GDL リファレンスガイド』を参照してください。

4. 特性オブジェクトを例えば、「オブジェクトカウンタ」という名前で保存します。

注記：このオブジェクトは、オブジェクトタイプ（名前）ごとに別々に数量（数）の列を生成します。

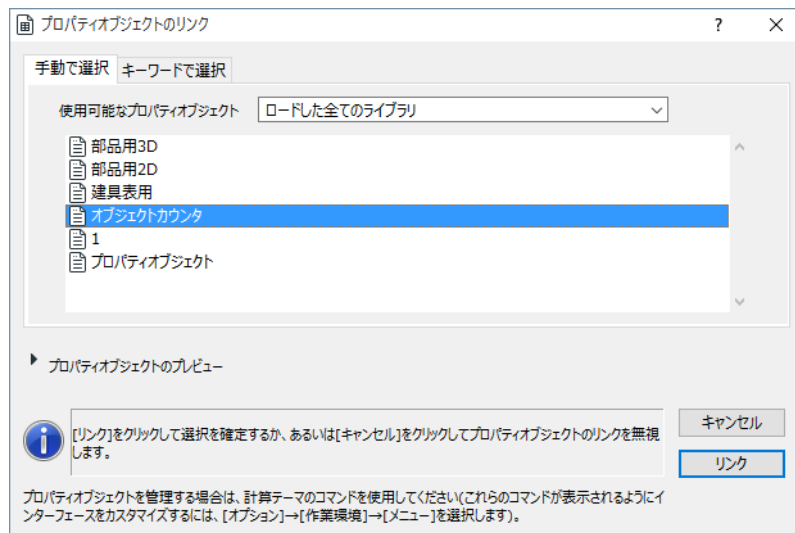
ステップ 2: 「オブジェクトカウンタ」をオブジェクトにリンクします。

方法 1: 個別リンクを使用

1. リストに含める全てのオブジェクトを選択します。
2. [オブジェクト設定] ダイアログボックスを開きます。
3. [リストパネル] に移動。

注記: パネルはデフォルトでは表示されません。構造要素の設定で有効にするには、[オプション] → [作業環境] → [ツール設定ダイアログボックス] に移動してください。

4. [基準別のリンクプロパティオブジェクト] チェックボックスがオンの場合はオフにして、下の [個別] チェックボックスをオンにします。
5. [プロパティオブジェクトのリンク] ダイアログボックスが開きます。

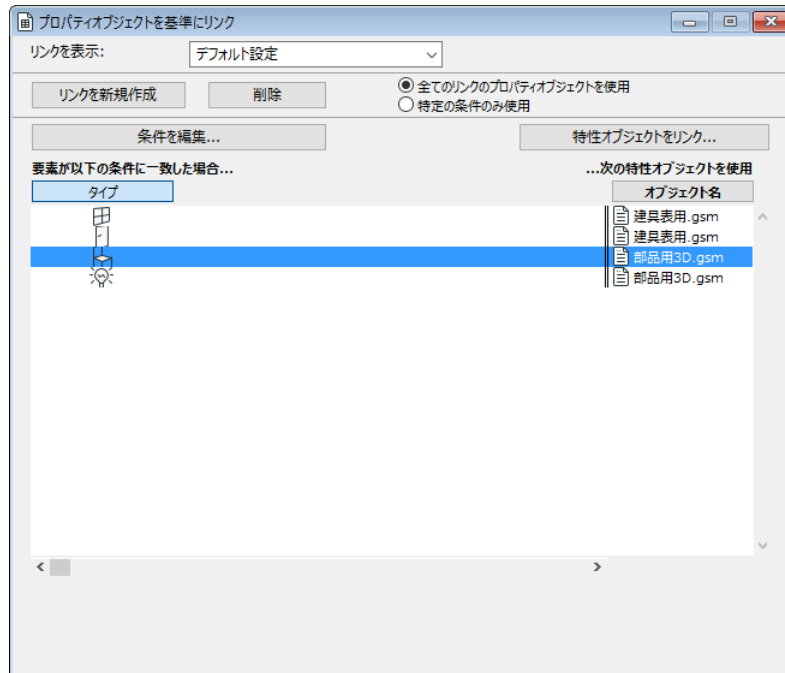


6. 一覧の [オブジェクトカウンタ] を選択し、[リンク] をクリックします ([オブジェクト設定] ダイアログボックスに戻ったときに前述のチェックボックスの下のボックスに [オブジェクトカウンタ] が表示されていることを確認します)。
7. [OK] をクリックしてリンクを確立します。

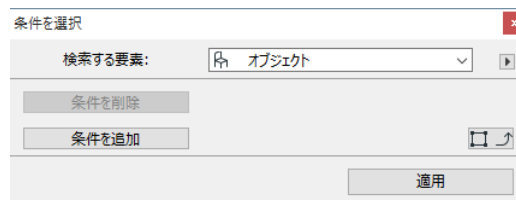
注記: これ以降配置された全てのオブジェクトは、個別にリンクする必要があります。

方法2：条件別のダイナミックリンクを使用

1. [特性を条件にリンク] コマンドを使用します。



2. [リンクを表示] ボックスの一覧の [データベース設定] をクリックします。
3. [リンクを新規作成] をクリックしてから [条件を編集] をクリックし、[条件を選択] を開きます。
4. [一覧] の [タイプ] をクリックし、右側のパレット一覧のオブジェクト（椅子アイコン）をクリックします。

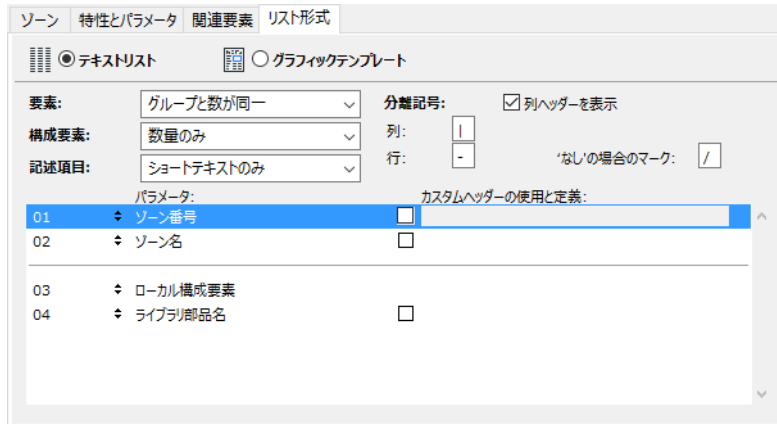


5. [適用] をクリックして [プロパティオブジェクトを基準にリンク] ダイアログボックスに戻ります。
6. ダイアログボックスを閉じ、プロンプトが表示されたら条件を保存します。
7. リストに含める全てのオブジェクトを選択します。
8. [オブジェクト設定] ダイアログボックスを開きます。[リストパネル] に移動。
注記：パネルはデフォルトでは表示されません。構造要素の設定で有効にするには、[オプション] → [作業環境] → [ツール設定ダイアログボックス] に移動してください。
9. [個別] チェックボックスがオンの場合はオフにして、[基準別のリンクプロパティオブジェクト] チェックボックスをオンにします。

注記：リストに既存のオブジェクトに対するリンクがある場合、特定のオブジェクトではそのリンクが今回の条件と競合することがあります。リンクを追加した方がいい場合もあります。また、このリンクの代わりにもっと具体的なリンクを適用することもできます。

ステップ3：リストを設定します。

1. 例1の手順1から6までを行うか、既存のゾーン内のオブジェクトリスト設定を複製し、これに例えば「ゾーン内のオブジェクトと合計」のような名前を付けます。
2. 3番目のタブページ ([関連要素]) では、次のようにします。
 - [構成要素] ボックスの一覧の [オブジェクト固有の項目のみ] をクリックします。
 - -[キー] ボックスの上の [全て] チェックボックスがオンであることを確認します。
3. 4番目のタブページ ([リスト形式]) では、次のようにします。
 - ダイアログボックスの一番下に、次のパラメータリストが表示されたことを確認します。

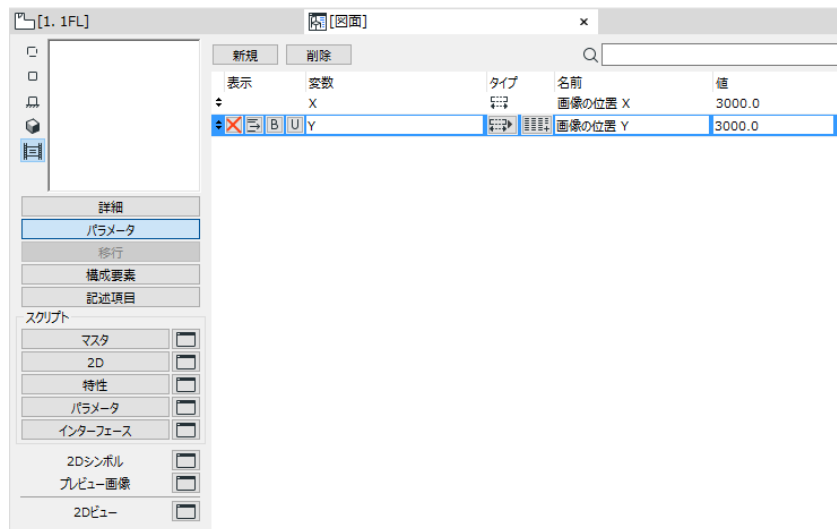


4. [OK] をクリックし、[ゾーンリスト] から以前に保存したリスト一覧を選択します。

ゾーン番号	ゾーン名	ライブラリ部品名
1 01	リビングルーム	/
1 /	/	アームチェア 01
1 /	/	アームチェア 02
1 02	ベッドルーム	/
2 /	/	オフィス デスク 角
1 /	/	カップボード
1 03	キッチン	/
1 04	浴	/
1 05	ホール	/
1 /	/	ピアノ 02
1 06	トイレ	/
1 /	/	バリヤード

B：グラフィックテンプレートの設定例

1. [特性を新規作成] コマンドを選択します。特性オブジェクトをライブラリの [特性データ] フォルダに保存します。例えば「drawing」という名前にします。
2. 新しいパラメータ X および Y を作成します。



3. 特性スクリプトウィンドウで、「DRAWING」と入力します。
4. 2D スクリプトウィンドウで、次のように入力します。

?DRAWING3 7, 270, 2

ADD2 x,y

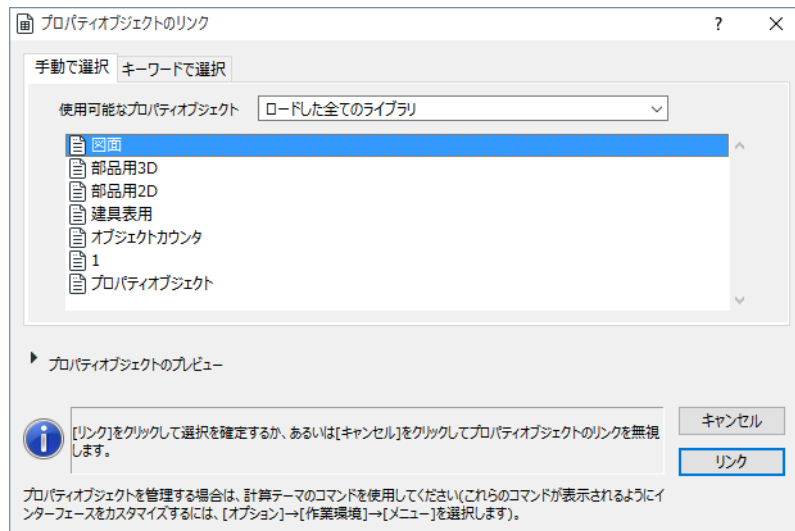
DRAWING2?

詳細については、ARCHICAD ヘルプの『GDL リファレンスガイド』を参照してください。

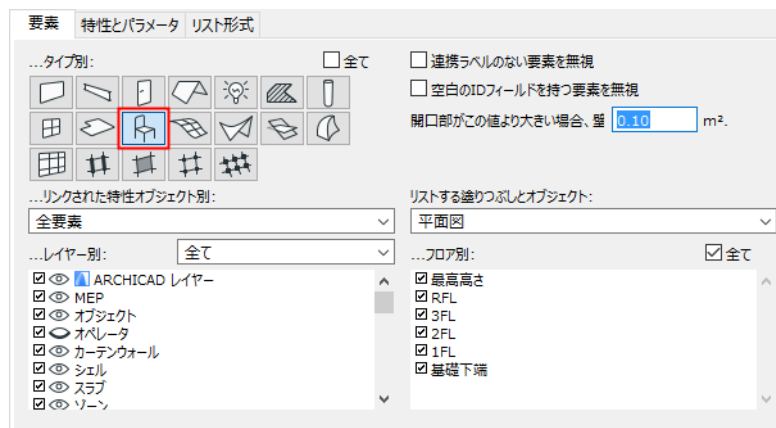
5. 特性オブジェクトを保存します。
6. 平面図でオブジェクトを選択し、選択したオブジェクトにこの特性オブジェクトを割り当てます。オブジェクト設定ダイアログボックスのリストパネルで [条件による] チェックボックスをオフにし、[個別] チェックボックスをオンにします。

注記：リストパネルはデフォルトでは表示されません。構造要素の設定で有効にするには、[オプション] → [作業環境] → [ツール設定ダイアログボックス] に移動してください。

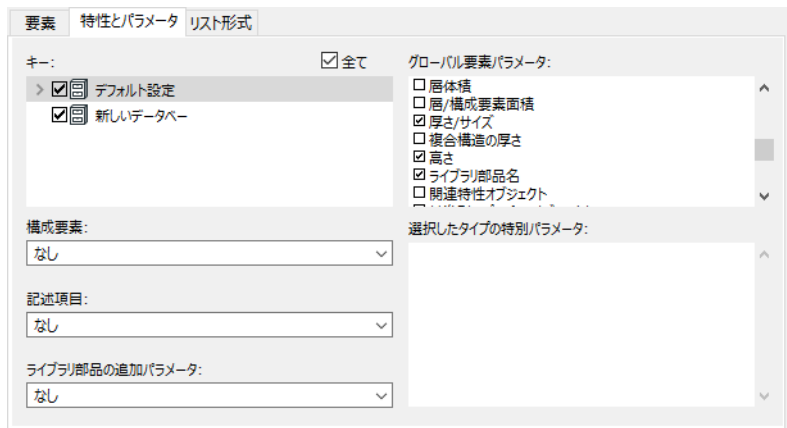
7. 作成した特性オブジェクト（図面）を選択します。



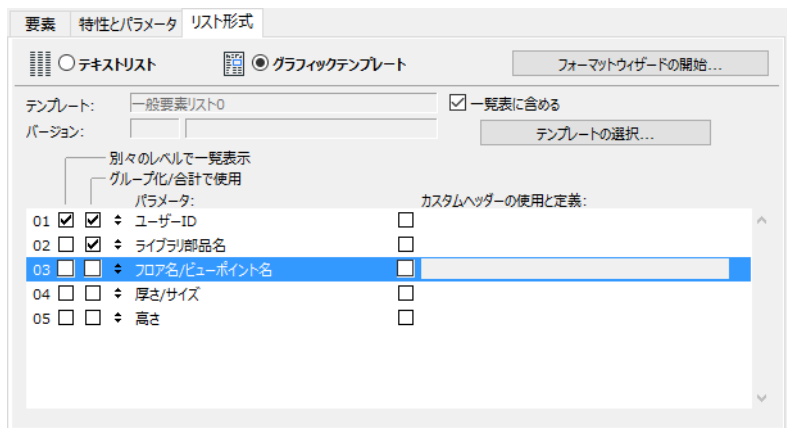
8. [リストの設定] ダイアログボックスを開きます。[一般要素リスト] 設定をクリックし、これを複製します。「My Object Inventory」という名前を付けます。
9. [要素] タブページで、リストに含める唯一の要素タイプとしてオブジェクトを選択します。



10. [特性とパラメータ] タブページで、[構成要素] ボックスと [記述項目] ボックスの一覧の [なし] をクリックし、パラメータリストの次のパラメータのチェックボックスをオンにします。
 - ユーザー ID
 - 厚さ / サイズ
 - 最大高さ
 - ライブラリ部品名
 - フロア名 / ビューポイント名



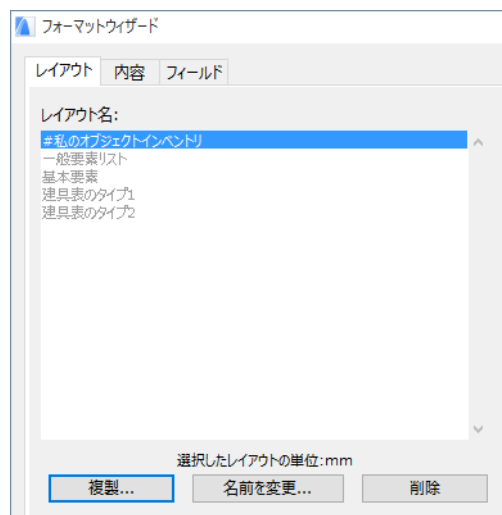
11. [リスト形式] タブページで、グラフィックテンプレートを選択します。それから、表示されるパラメータの順番を変更します。



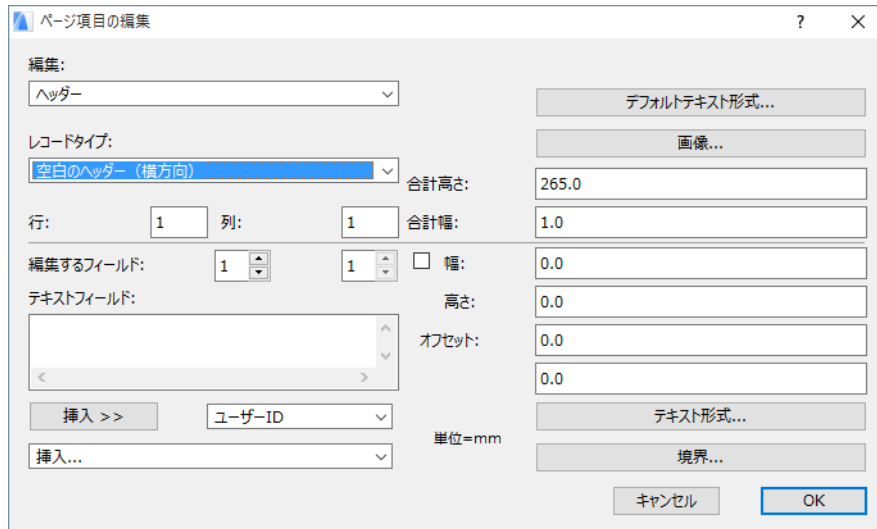
12. [フォーマットウィザードを開始]/[フォーマットアシスタントを開始] をクリックします。

13. 表示されたウィンドウの [ローカル名] の一覧の [一般要素一覧] をクリックします。

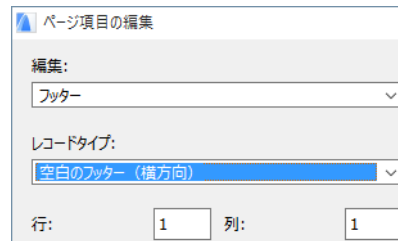
14. [複製] をクリックします。新しいリストレイアウトに、「#My Object Inventory」という名前を付けます。



15. [ヘッダー] ボタンをクリックします。[レコードタイプ] ボックスの一覧の [空のヘッダー (横方向)] をクリックします。



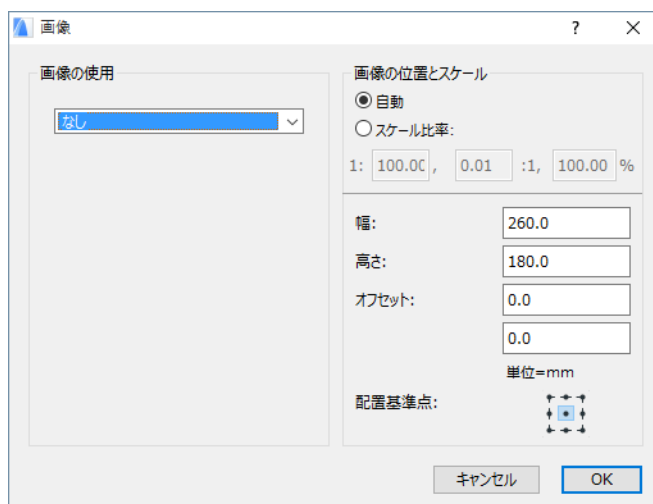
16. [編集]ボックスの一覧の[フッター]をクリックし、次に[レコードタイプ]ボックスの一覧の[空白のフッター (横方向)]をクリックします。



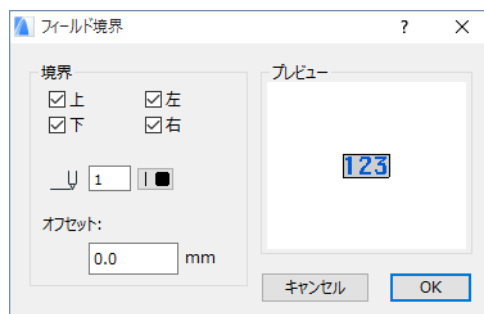
17. [編集]ボックスの一覧の[背景]をクリックし、[合計幅]ボックスに「260mm」、[合計高さ]ボックスに「180mm」と入力します。この下の幅と高さのボックスにも同じ数字を入力します。



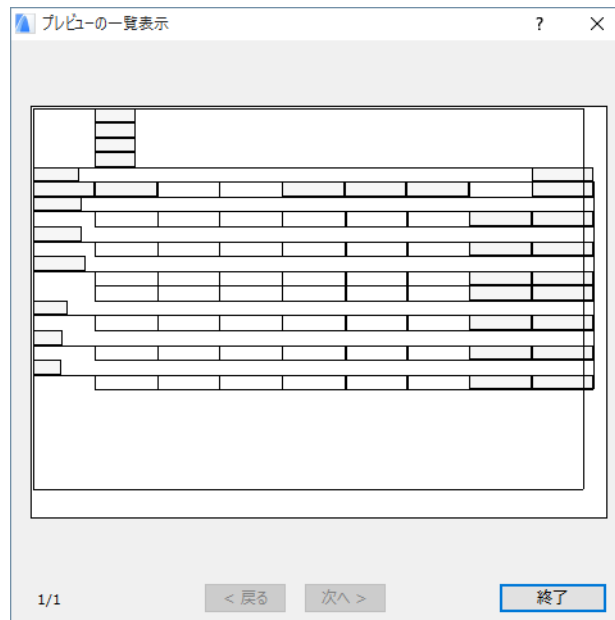
18. [画像]をクリックし、[画像の使用]ボックスの一覧の[なし]をクリックします。



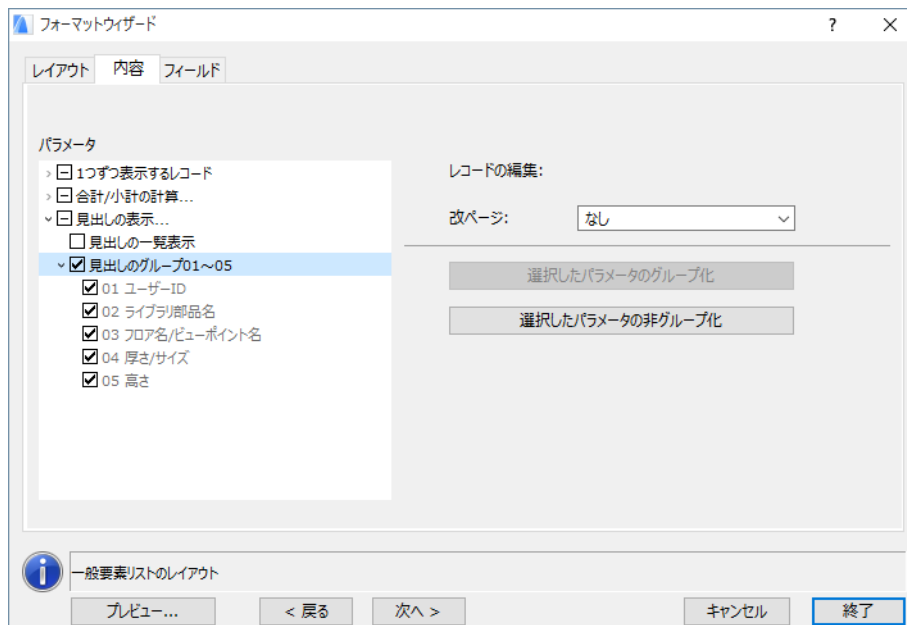
19. [境界] をクリックし、[フィールド境界] ダイアログボックスを開きます。全てのチェックボックスをオンにして、フィールドの各辺に枠を描きます。[OK] をクリックして [ページ項目の編集] ダイアログボックスに戻ります。



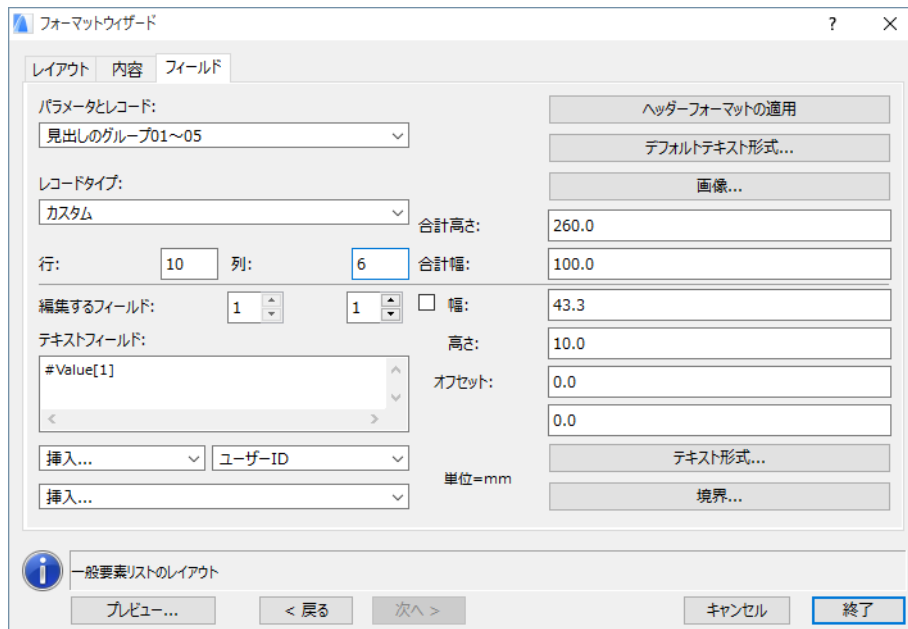
20. [編集] ボックスの一覧の [最初のページのヘッダー] をクリックし、次に [レコードタイプ] ボックスの一覧の [空のヘッダー (横方向)] をクリックします。
21. [編集] ボックスの一覧の [最初のページのフッター] をクリックし、次に [レコードタイプ] ボックスの一覧の [空のフッター (横方向)] をクリックします。
22. [OK] をクリックして [レイアウト] タブページに戻ります。
23. [プレビュー] ボタンをクリックします。(平面図にはいくつかのオブジェクトが配置されている必要があります。そうでないと、プレビューには何も表示されません。)[完了] をクリックして、このウィンドウを閉じます。



24. [内容] タブページを開き、[パラメータ] ボックス内の [1 つずつ表示するレコード] の下の全てのチェックボックスをオフにします。
25. [パラメータ] ボックス内の [見出しの表示方法] の下の全てのチェックボックスをオフにします。
26. [合計 / 小計の計算] ([総合計] を除く) の下にあるパラメータを全て選択し、[選択したパラメータのグループ化] ボタンをクリックします。次に示すように適切なアイコンを選択します。選択した5つのパラメータが、階層上、[合計のグループ 01 ~ 05] という名前の新規グループのメンバになります。



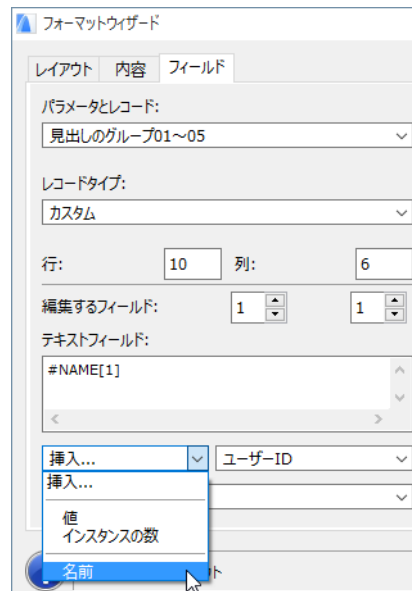
27. [フィールド] タブページを開きます。[パラメータとレコード] ボックスには、[合計のグループ 01 ~ 05] という項目しかリストされません。
28. 合計幅を 260mm、合計高さを 100mm に設定します。
29. 行数を 10 に、列数を 6 に設定します。



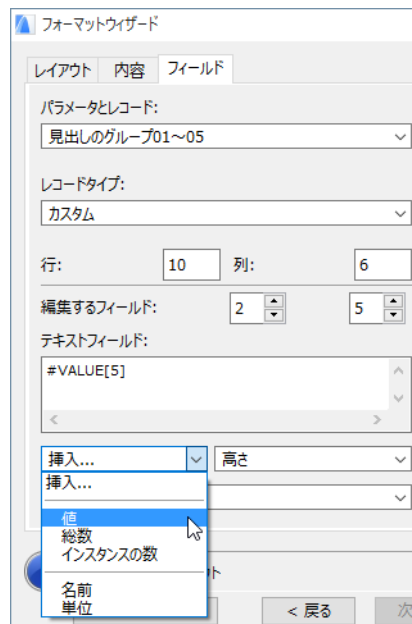
30. [画像] ボタンをクリックして [画像] ダイアログボックスを開き、リストから [特性オブジェクトの 2D 全体表示] を選択します。
31. 幅に「100mm」、高さに「50mm」と入力します。また、最初のオフセット（水平）に「47.1mm」、2番目のオフセット（垂直）に「40mm」と入力します。



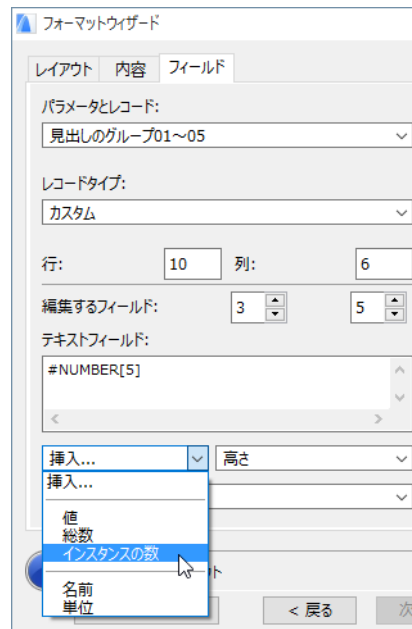
32. [OK] をクリックして、[フォーマットウィザード]/[フォーマットアシスタント] ダイアログボックスの [フィールド] タブページに戻ります。
33. 行 1/ 列 1 を選択し、右側のボックスの一覧の最初のパラメータ ([ユーザー ID]) をクリックし、このフィールドに表示する内容として、左側のボックスの一覧の [名前] をクリックします。この手順をリスト内の全てのパラメータに対して繰り返します。



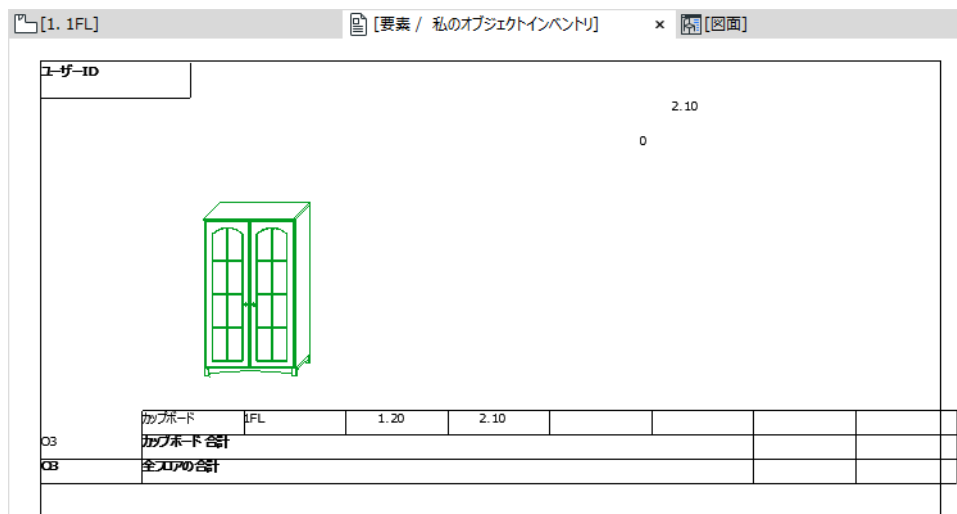
34. 2行目にはパラメータの実際の値を表示します。[編集するフィールド]ボックスを2行目に設定し、値の挿入を開始します。右側のボックスからはパラメータを選択し、左側のボックスでは[挿入]→[値]をクリックします。



35. 3行目には、インスタンスの数を表示します。[編集するフィールド]ボックスを3行目に設定し、最初のフィールドに「インスタンスの数」と入力します。3行目の2番目のフィールドの場合、右側のボックスからはパラメータを選択し、左側のボックスでは[挿入]→[インスタンスの数]をクリックします。



36. [プレビュー] をクリックしてプレビューを見ます。(平面図にはいくつかのオブジェクトが配置されている必要があります。そうでないと、プレビューには何も表示されません。) [完了] をクリックして、[フォーマットウィザード]/[フォーマットアシスタント] に戻ります。
37. [デフォルトのテキスト形式] ダイアログボックスで文字の高さを 4 mm に設定し、中央揃えを選択します。
38. 各フィールドに対して、フィールドの下辺に枠が表示されるように設定します。[境界] をクリックし、[下部] チェックボックスをオンにします。
39. 2 行目のフィールドは、少しきれいに見えるように垂直方向に 2mm オフセットしてもかまいません。3 行目は垂直方向に 5mm オフセットしてもかまいません。フィールドごとに個別にオフセットを入力します。
40. [完了] をクリックして完了です。
41. リストを表示するには、[要素リスト] → [My Object Inventory] を選択します。



索引

数字

構成要素リスト 6
 単位 15
 要素リスト 6

L

LISTSET.TXT
 ~データベースファイル 45

か

壁減算の量 48

き

記述項目
 オブジェクト特有の~ 29
 要素リストの~ 51

構成要素

要素リストの~ 51

キー

要素リストの~ 51

く

グラフィックテンプレート
 要素リストの~ 57

け

計算コマンド 6

こ

構成要素

オブジェクト特有の~ 28
 データベース~ 22

構成要素および記述項目のデータベースへのリンク 31

構成要素および記述項目の定義

の編集 28

単位

の編集 20

特性

の編集 26

キー

の編集 19

さ

価格表

~の作成 11

在庫

~の作成 9

材質一覧

~の作成 11

数量拾い

~の作成 11

部屋の建具表

~の作成 11

し

条件

~別特性の割り当て 36

条件を選択

~ダイアログボックス 32, 34

条件を編集 34

そ

ソート順

要素リストパラメータの~ 55

ゾーン一覧 62

構成要素リスト

カスタマイズ 60

ゾーンリスト 6

カスタマイズ 63

た

単一列

~レイアウト 68

タイル

~レイアウト 68

て

データベース

~記述項目 24

~項目へのリンク 31

~とリスト設定 41

デフォルト~ 12

テンプレート

グラフィック~の選択 57

と

記述項目

定義 15

構成要素

定義 14

構成要素リスト

定義 11

特性オブジェクト

~のリンク 25
 定義 25
 要素リスト
 定義 9,10
 キー
 定義 12
 ゾーンリスト
 定義 11
 リスト設定
 定義 7

ふ

フォーマットウィザード 8
 リストレイアウト形式の~ 66

へ

ヘッダー
 要素リストの~ 55

よ

要素構成リスト 59
 要素リスト
 詳細 55
 特性とパラメータ 51
 リスト形式 54

り

グラフィックレポート 7
 リスト形式
 グラフィックレポート 57
 標準テキストレポート 7
 標準要素リスト 54
 リストコマンド 6
 特性
 新しい~の作成 25
 リスト設定
 ~の構成 44
 ~の削除 45

~の選択 44
 ~の名前を変更 45
 ~のロック 45
 新しい~の作成 45
 最後に選択した特性
 ~コマンド 38
 特性を条件にリンク…
 ~コマンド 32
 特性を新規作成
 ~コマンド 26
 特性を編集
 ~コマンド 26
 リスト設定を編集
 ~コマンド 43

れ

フィールド
 グラフィックテンプレートの~ 41
 レイアウト
 グラフィックテンプレートの~ 67
 レコード
 グラフィックテンプレートの~ 41
 特性オブジェクトによるフィルタ
 ~リスト設定 49
 要素別フィルタ
 ~リスト設定 47
 フロア別フィルタ
 ~リスト設定 48
 ラベルおよびIDによるフィルタ
 ~リスト設定 47
 レイヤー別フィルタ
 ~リスト設定 48
 レポートの出力 7

わ

割り当て
 特性データの~ 36
 特性データへ直接個別に~ 36